

## 平成27年度 新たな防災教育の取組

東日本大震災は、防災教育の重要性と必要性を、私たちに改めて認識させた。それを踏まえ、平成24年度に、これからの防災教育の基本的な方向を示し、新たな防災教育18校(七郷小学校は平成25年度から研究開発校となる。)を指定し、新たな学校防災教育推進協議会を通して、知見や成果を整理した。

平成27年度からは、1年間で区ごとに約5～6校ずつを指定し、平成32年度までの6年間で、市内すべての小中学校が研究推進取組発表校となり、防災対応力を育むために学校・地域の実態に応じて、各教科等の防災にかかわる指導内容を相互に関連付けた年間指導計画を作成し、教育活動を展開、効果を検証する。

平成27年度は、29校が研究推進取組発表校として、実践内容と児童・生徒の変容を発表した。

( 発表資料は次ページより掲載 )

### 【 平成27年度の研究推進取組発表校 】

〔青葉区〕 吉成小学校 吉成中学校 南吉成小学校 南吉成中学校  
〔若林区〕 六郷小学校 東六郷小学校 六郷中学校  
〔宮城野区〕 岩切小学校 岩切中学校  
〔太白区〕 向山小学校 愛宕中学校 茂庭台小学校 茂庭台中学校  
生出小学校 生出中学校 郡山小学校 東長町小学校 八本松小学校 郡山中学校  
〔泉区〕 寺岡小学校 寺岡中学校 南光台東小学校 南光台東中学校  
長命ヶ丘小学校 長命ヶ丘中学校 住吉台小学校 住吉台中学校  
館小学校 館中学校

合計29校

### 【 平成28年度の研究推進取組発表校 】

〔青葉区〕 大沢小学校 川前小学校 大沢中学校 上杉山通小学校 上杉山中学校  
〔若林区〕 沖野小学校 沖野東小学校 沖野中学校  
〔宮城野区〕 中野栄小学校 福室小学校 中野中学校  
〔太白区〕 柳生小学校 西中田小学校 柳生中学校  
秋保小学校 馬場小学校 湯元小学校 秋保中学校  
〔泉区〕 鶴が丘小学校 松森小学校 鶴が丘中学校  
南中山小学校 北中山小学校 南中山中学校  
高森小学校 高森東小学校 高森中学校  
根白石小学校 実沢小学校 福岡小学校 根白石中学校

合計31校

# 平成27年度 新たな防災教育 研究推進取組発表校 発表会

～3.11から未来へ～

- 1 ねらい 平成27年度新たな防災教育研究推進取組発表校が、学校・地域の実態に応じた年間指導計画を基に実践した内容と児童・生徒の変容を発表し、取組の成果と知見を仙台市全体で共有する。
- 2 日時 平成28年1月25日(月) 14:00～16:45
- 3 場所 仙台市教育センター
- 4 発表時程

	第2研修室	第3研修室	第7研修室	第8研修室	第9研修室
14:00～14:15	<b>全体会</b>				
	1 開会 2 学校教育部長 あいさつ 3 趣旨説明 指導課より				
14:15～14:25	移 動				
14:25～14:40	岩切小学校	南光台東小学校	生出小学校	郡山小学校	六郷小学校
14:40～14:55	岩切中学校	南光台東中学校	生出中学校	東長町小学校	東六郷小学校
14:55～15:10	茂庭台小学校	向山小学校	住吉台小学校	八本松小学校	六郷中学校
15:10～15:25	茂庭台中学校	愛宕中学校	住吉台中学校	郡山中学校	第9研修室は、学校数が少ないため、六郷中終了後、休憩その後 長命ヶ丘小学校 長命ヶ丘中学校 協議となります。
15:25～15:35	休 憩				
15:35～15:50	寺岡小学校	南吉成小学校	吉成小学校	館小学校	
15:50～16:05	寺岡中学校	南吉成中学校	吉成中学校	館中学校	
16:05～16:45	<b>各研修室 協議</b>				
	1 グループ討議 <討議の視点> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間指導計画を作成するうえで、大切な点は何か</li> <li>・ 各校の取組を聞いて、参考にしたい点は何か</li> </ul> 2 グループから発表(1, 2に関して、グループで話し合い、発表する。) 3 防災主幹から 4 指導主事から 指導・助言 1～4が終了次第 各自ワークシートを完成させ、担当に提出し、解散 ※第9研修室は終了次第解散				



地域とともに 防災訓練



仮設トイレづくり



防災マップづくり

平成27年度 研究推進取組発表校 一覧

学校名	区	年間指導計画作成上の工夫	P
吉成小学校	青葉区	中学校や地域と連携した防災教育 「たくましく生きる力育成プログラム」を活用した防災教育	1~2
吉成中学校	青葉区	ボランティア活動をとおして地域とのつながりを深める防災教育	3~4
南吉成小学校	青葉区	児童の主体的な判断力・行動力を育む防災教育 ～教科・総合・行事に組み込んだ学習～	5~6
南吉成中学校	青葉区	生徒による震災復興・奉仕活動をとおして (中学生が主体となり、学校と地域が協働する地域防災訓練の実施)	7~8
六郷小学校	若林区	思いやりの心を育み、地域とつながる防災教育	9~10
東六郷小学校	若林区	地域と連携した防災教育 ～神戸との交流をとおして～	11~12
六郷中学校	若林区	地域と連携して進める防災教育	13~14
向山小学校	太白区	愛宕中学校や地域と連携して進める防災教育 ～コミュニケーション力の向上をとおして～	15~16
愛宕中学校	太白区	状況判断ができる生徒育成を目指す防災教育	17~18
茂庭台小学校	太白区	新防災副読本と防災関連室(絆ルーム)を活用した防災教育	19~20
茂庭台中学校	太白区	非常時に自助、共助の考えで行動できるための防災教育	21~22
生出小学校	太白区	地域・保護者と連携した防災教育	23~24
生出中学校	太白区	児童生徒及び地域の方々の顔が見える関係を築く防災教育	25~26
郡山小学校	太白区	他の人や地域の力になるための防災教育	27~28
東長町小学校	太白区	災害から自らの力で命を守り、共に生きる防災教育	29~30
八本松小学校	太白区	過去から学び、地域のことを知り、 未来を生き抜く力を育成する防災教育	31~32
郡山中学校	太白区	学校と地域が協働し、 生徒が主導する多様な体験的活動による防災教育	33~34
寺岡小学校	泉区	自分づくり教育の視点を生かした防災教育	35~36
寺岡中学校	泉区	地域防災訓練をとおして進める防災教育	37~38
南光台東小学校	泉区	避難訓練を核として意識、行動を変える防災教育	39~40
南光台東中学校	泉区	地域の人的資源を生かした防災教育	41~42
長命ヶ丘小学校	泉区	各教科等と関連付けた計画と学習	43~44
長命ヶ丘中学校	泉区	地域と連携した防災教育	45~46
住吉台小学校	泉区	地域の一員としての意識を高めながら進める防災学習(主に生活科・総合を中心に)	47~48
住吉台中学校	泉区	地域との連携、被災地についての学習を中心とした防災教育	49~50
館小学校	泉区	地域・家庭と連携した防災教育	51~52
館中学校	泉区	地域とかかわる力を身に付ける防災教育	53~54
岩切小学校	宮城野区	地域や中学校と連携し、小中の発達段階を意識して進める防災教育	55~56
岩切中学校	宮城野区	知識・技能・態度を育む活動の重点化 学校・家庭・地域の連携 3年間を通じて身に付ける防災教育	57~58

### 1 吉成小学校・地域の実態について

吉成小学校では、市街地から北西に位置し、吉成一丁目・国見ヶ丘・吉成台の団地からなる学区である。学区内に北環状線が通っており、その両側には大型店舗が建ち並んでいる。児童数は、平成2年に800名をこえたが、減少傾向にあり、現在は15学級(特支3学級)350名の在籍数である。

学区内のバス停留所「国見ヶ丘西」近くが国見峠の頂で、広瀬川・梅田川七北田川の分水嶺になっている。学区はこの高台(標高220,7m)を中心に広がっている。付近には、伊達家四代藩主綱村公が建立した河北山臨濟院跡地が史跡公園になっており、「壱脈泉」の泉がある。これが梅田川の水源とされている。交通も便利で商業地、自然豊かな住宅地からなる地区である。

地域の方や保護者は、学校教育に対する関心は非常に高く、地域の放射能残量や住宅地内の地滑りなどにも関心もあり、防災や災害に対する情報や知識が豊富である。



### 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童の姿

- ・災害に関する正しい知識を身に付ける。
- ・非常時に冷静に判断し、臨機応変に安全を確保できるような自助の力の向上を図る。
- ・非常時に進んで他の人や地域の力となれるような共助の精神や態度、能力をはぐくむ。

### 3 目指すべき児童の姿に迫る年間指導計画上のポイント

- ・中学校や地域と連携した防災教育
- ・たくましく生きるカプログラムを活用した防災教育

### 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、どのように児童生徒は変容したか。

年間計画の中に自分づくり教育を中心に特別活動、総合的な学習やたくましく生きる力育成プログラムの学習を取り入れ、友達や他者と関わりを重視する内容に取り組んだ。中でも隣接する中学校との合同であいさつ運動やボランティア活動、集団下校訓練等を設定したことで、互いに協力しながら地域の一員として、自覚と役割の意識化を図ることができた。さらに計画的に実践することで、徐々に一人一人の児童が正しく判断し安全に行動することができ、他者と協力しようとする意識が徐々に高まってきた。

※ボランティア活動(学区民運動会・地域ゴミ拾い活動・地域や学校の雪かき作業)

#### <年間指導計画に基づいて実践の具体>

たくましく生きるカプログラムの授業の活用

たくましく生きるプログラムも5年目になり、たくましく生きる力育成プログラムを全学級で3回ずつ実施した。本時は、3年生の授業「友達チェーン」である。自分の良さに気づき、前向きに学校生活を送り、他の児童との関わりの中で友達の良さに気づいて、学級を心地よいものにとらえることがねらいである。

たくましく生きる力育成プログラム学習の目標は、友達や他者と関わりを重視する内容が中心である。本校では、防災教育との関わりを考え、学級内や他学年でも互いに協力し積極的に他者と関わり、自覚と役割の意識化を図ってきた。また、防災の知識や理解だけでなく、3.11を経験してきた児童にとって他者との(つながり)が必要であると考え、一つの手段としてたくましく生きるプログラムを実践している。



防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	(例)総合 【地域・文化・自分づくり】	特 活・たくましく生きる力 道徳	
4	交通安全教室 遠足 家庭確認訪問	【理科】 ・物の燃え方と空 気		最高学年として リーダーとして のリーダー付け	17言葉に するまでの時間 (役割の自覚と責任)
5	防犯子どもを守るデー ★集団下校訓練 地区巡視の	【理科】 ・物の燃え方と空 気	仙台と盛岡 ・岩手の文化 ・ゆかりの人物	地域のリーダーとして ナンバーゲームの恐怖13	35日常に生かす 作法のヒント (礼儀)
6	避難訓練(地震) 引き渡し訓練 吉小夏まつり	【国語】 ・書き手のくふう を考えながら新 聞の投書を読もう	★学区民運動 会ボランティア 活動	ボランティア活動・集 団下校訓練に向けて	
7	避難訓練(不審者)	【家庭】・物の使 い方を見直そう	人のためにできること、とも に生きる ・仮設住宅訪問	地域のリーダーと して リーダーとして のリーダー付け	26海は死なない (勤労・奉仕)
8	夏まつり 22		・自分たちができること	みとおす力	
9	5年野外活動 10・11 小中合同地域清掃	【理科】 ・大地のつくりと 変化		会社活動 をしよう	13ふるさとの音 (郷土愛)
10	地域や避難訓練時 のリーダーとして	【理科】 ・大地のつくりと 変化		フルーツポン チを作ろう	
11	故郷復興プロジェクト 避難訓練(火災) ★小中合同集団下校訓練の (吉成中) 地区巡視の	【国語】 ・「持続可能な社 会」への取り組み について調べよう		かかわる力 うごく力	32最後の言葉 (生命尊重)
12		【社会】 ・わたしたちの願 いを実現する政 治		家族との心のつ ながり ②冬休みの過 ごし方	かかわる力 うごく力
1		【理科】 ・電気とわたした ちの暮らし	自分たちの生き方を考え よう ～吉成中学校との交流～	異学年と交流しよ う 日本脱出	22 55年日の 恩返し (感謝)
2	復興プロジェクトに 向けて	【理科】 ・電気とわたした ちの暮らし 【社会】 ・日本とつなが りの深い国々	・キャリア体験発表視聴 ・部活動体験	異学年との交流 地域の皆さんへ	復興プロジェクトに 向けて
3	故郷復興プロジェクト	【社会】 ・世界の未来と日本 の役割 【家庭】・これら の家庭生活を見直 そう	東日本大震災から学ぶ	震災を振り返ろう	28この命の かがやきを (生命尊重)

## 仙台市立吉成中学校 第3学年

### 1 学校・地域の実態について

本中学校区は青葉区の郊外にある丘陵地域に広がる住宅地である。震災の影響はあまりなく、そのためか地域全体においても防災に関する意識は風化しつつある。しかし、地域においては、避難所マニュアルを作成しており、中学生の役割への期待が大きい。

### 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- ・災害に対する防災意識の高揚と防災に関する対応方法を確実に身に付けることができる生徒。
- ・集団下校の方法を理解し、緊急時に安全に下校できる生徒。
- ・避難所開設などに備え、防災訓練を通して緊急時に地域の中で行動できる生徒。

### 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント (キーワードで)

「地域と共に！」吉成中総合防災学習

- ・ボランティア活動を通して地域とのつながりを深めながら、防災の連携を深める。
  - 1年生 地域の一員としての意識を向上させ、防災に関する知識を身につけさせる。
  - 2年生 地域のボランティア活動に関わることで地域とのつながりを深める。
  - 3年生 災害時に学校が果たす役割や自分ができていることに目を向けさせる。

### 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・防災訓練等を通して、自分自身を自分で守るという意識が身に付きつつある。
- ・地域の中でできる自分たちの役割について考え、実践できるようになってきた。
- ・災害時に、自分たちができていることに目を向けられるようになった。

### < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

#### 1 総合防災訓練 (年間指導計画11月)

1年生と2年生は救急救命訓練(AED心肺蘇生訓練・人工呼吸方法・応急手当訓練)を、3年生は避難所設営訓練と避難所災害備蓄物資搬出訓練(防災備蓄庫内容の確認も)を行った。地域連携の一つとして、避難所が開設された場合に備えての訓練を行うことで、非常時に地域の一員として活動できる生徒を育てることを目的としている。

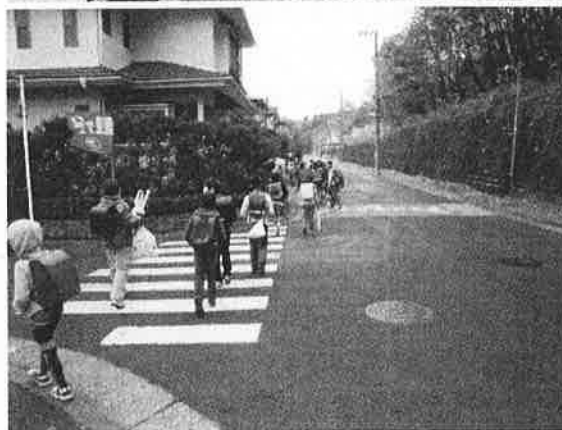
避難所設営訓練および避難所物資搬出訓練あたっては、町内会との連携を視野に実施している。例年、各町内ごとに編成されている各班(総務班、名簿班、衛生班、救護班、食料物資班、情報広報班)の担当者に参加してもらっている。今後は町内会の担当者の指示のもと、訓練を実施していきたいと考えている。

#### 2 小中合同集団下校訓練 (年間指導計画11月)

学びの連携の研究指定校であり、数年前から小中連携の一つとして小中合同の集団下校を行っている。小中児童生徒が共に緊急時に安全に下校できるようにすることを目的とし、7つの町内会、18グループに分かれ、中学生が班長を務め、小学校教員が先導する形で集団下校訓練を行った。

#### 3 小学校・地域との連携

ボランティア活動である「よしボラ」を、年間を通して実践することで、小学校児童や地域で生活する方々との交流の機会が増えている。近所で生活するお互いの顔が分かることは、いざという時に役立つと考える。



地域とともに活動する防災教育

仙台市立吉成中学校 第3学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科領域 関連行事等	教科	総合	教科	特活	道徳	
4	・PTA総会 ・地域防災会議 (毎月通学路清掃)				・避難経路の確認	よしボラ について	
5	・復興プロジェクト ・修学旅行 ・地域防災会議	・都市の発展と 関東大震災 (社会)				よしボラ	
6	・市中総体 ・避難訓練(地震)					よしボラ	・我が子への手紙(生命の尊さ)
7	・合唱祭					よしボラ	・約束(2章②)
8	・校内研修会 ・地域連絡会 ・校内緑化活動					よしボラ	
9	・吉中祭(文化祭) ・学区民運動会	・住民参加の 拡大(社会) ☆仙台市震災復興計画を知ろう (2章⑥)				よしボラ	・生きるって どんなこと (生命尊重)
10	・地区生徒会 ・部活動見学会 ・体育祭	地域の方々に避難所の設置の様子を公開する。	・災害時の避難所について ☆地域の一員として(5章③)		副読本等で事前に避難所の設置の仕方を学習する。	よしボラ ・地区生徒会	☆はじまり (5章②)
11	・避難訓練 ・総合防災訓練 ・小中合同 ・集団下校訓練	・一人一人が 災害に備える (技・家)				よしボラ	
12	・小中交流会 ・オープン キャンパス	・いろいろな エネルギー (理・技)	・防災思考を高めよう(たく生き)			よしボラ	
1		☆家庭でできる 災害への備え (保体)(4章③)				よしボラ	・今伝えたいこと (感謝)
2		・自然の恵みと 災害(理科) ☆世界で最も自然災害のリスク が高い日本(3章①)				よしボラ	
3	・通学路清掃 ・ふるさと復興 プロジェクト					よしボラ	

よしボラ  
吉成中学校のボランティア活動  
主な活動  
①吉成小学校児童の学習活動への支援  
②地区清掃や落ち葉掃き・雪かき  
③夏祭りへの参加や運動会への参加  
④その他

副読本等  
副読本等

小中連携の行事を通して、  
小中の交流の機会を多く  
展開している。

ボランティア活動を通して小学校や地域とのつながりを深める

☆副読本活用

## 仙台市立南吉成小学校 第3学年

### 1 学校・地域の実態について

- ・それぞれの学年のフロアーが独立した校舎の造りになっているため、災害の一次避難に対する意識を児童も教師も強く持つ必要がある。
- ・団地にある小学校としては学区が広く、徒歩での通学には1時間近く掛かる児童もおり、通学路での「防災」も意識させたい。
- ・東日本大震災では、大きな被害はなかった学校・地域である。

### 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

危険を予知し、周りとの関わりを考えながら、自らの身を守ろうとする児童

### 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

児童の主体的な判断力・行動力を育む防災学習 ～教科・総合・行事に組み込んだ学習～

### 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・避難訓練などに、さらに真剣な態度で参加するようになった。
- ・放送の指示は聞き逃さないという態度がどのような場面でも見られるようになった。
- ・日常生活で「安全」を意識し相手を思いやって行動することや声を掛け合うことなど、周りへも配慮した行動が浸透しつつある。
- ・校内、通学路、学区内の施設等の設備や工夫に関心を持ったり、教科学習の個々の活動における安全面での注意点を自ら意識したりするようになった。

### < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

#### 1. 社会「店ではたらく人」…学区内のスーパーマーケットの見学（10月実施）

学区内のスーパーマーケットで店内とバックヤードで働く人の様子を見学した。買い物がしやすいような工夫とともに、店内の通路、非常口や消火器など安全面での施設・設備にも目を向けて見学することができた。学区内の店でもあるので、その後も多くの児童が買い物に行き、駐車場や雨の日の事故防止の工夫などにも気付き、自分自身の気を付けるべきことにも目を向けられるようになった。

#### 2. 総合的な学習「みんなのふるさと南吉成」（6月実施）

集会所や防災倉庫の見学をし、地域の方々が互いに支え合っていることや災害にしっかりと備えていることを知ることができた。公園や通学路などの「南吉成の安全」を探す活動にもつながった。

#### 3. 避難訓練（5月、9月、11月実施）

9月の休憩時避難訓練では、校庭の端の一部で放送がよく聞こえなかった児童が周りの様子を見て避難したり、声を掛け合い互いに避難を促したりする場面が見られた。3学年では、通常と異なった経路での避難訓練も学年独自で実施した。

#### 4. あいさつ運動（毎月実施）

毎月1回、担当学年が校門、昇降口、廊下などに少人数ずつ分かれて立ち、登校して来る児童を元気な挨拶で迎えた。担当学年を決めて行ったことにより、それぞれの役割がはっきりとし、他の学年の児童に対しても大きな声を掛けられるようになった。中心となっている高学年の計画委員の活動の様子にも刺激を受け、学校全体としての連帯感が生まれている。





目指す児童の姿…危険を予知し、周りとの関わりを考えながら、自分の身を守ろうとする児童

年間指導計画作成上の工夫…児童の主体的な判断力・行動力を育む防災学習

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度		
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容		
月	教科・領域	教科	総合			特活	道徳	
	関連行事等		社会で「防災」の知識を学ぶ。					
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>防犯子どもを守ろうデー（毎月 学区巡視）</li> <li>あいさつ運動（7月）</li> <li>登下校指導</li> <li>個人面談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校のまわり（社）学区の地形の特徴、がけ崩れの危険がある場所</li> </ul>	みんなのふるさと南吉成			<ul style="list-style-type: none"> <li>避難経路の確認・非常時下校体制の確認</li> <li>災害時の家族の約束</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校の安全</li> <li>特別教室、体育館、校庭からの避難の仕方もしっかり確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロボくんと小鳥（勤労）</li> <li>☆第1章 たった一つのもの（道）</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで挨拶しあう学校 他学年との関わり</li> <li>避難訓練（地震）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆第3章③雨・風・かみなりについて知ろう（理）</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練事前事後指導</li> <li>☆第3章①地しんについて知ろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>たてわり活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大切なものは何ですか（生命尊重）</li> </ul>	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校奉仕の日①</li> <li>防犯教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の「防災」への関心を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会所の働きや防災倉庫について知ろう</li> <li>南吉成の自然を感じよう（権現森登山）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練後、「安全」の本を活用し振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆第4章⑤家族ぼうさい会をひらこう</li> </ul>		
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>エコフェスティバル（児童会行事）</li> <li>引き渡し訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の様子（社） 仙台市西部と東部の地形の違い（校外学習）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆第2章③ふるさとを元気に自分たちでできること</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>エコフェスティバルでの移動の仕方・下学年への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みの生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>祭りだいこ（郷土愛）</li> </ul>	
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校指導</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の「安全」と周りの「安全」を考えての行動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域行事への参加</li> </ul>		
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練（休憩時）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場の仕事（社会） 防災への取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「南吉成の安全」をみつけよう</li> <li>「南吉成のやさしさ」をみつ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>休憩時避難訓練事前事後指導（休憩時の避難の仕方）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室以外の場所での一次避難避難の仕方</li> </ul>		
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習発表会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>店ではたらく人（社） 防災への取組</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>学習発表会時の災害発生への対応</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>小さなお父さん（家族愛）</li> </ul>	
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校奉仕の日②</li> <li>避難訓練（火災）</li> <li>故郷復興プロジェクト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーパーマーケットの「防災」への取組や工夫に気付かせる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練事前事後指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆第4章④自分でできる</li> </ul>		
12		<ul style="list-style-type: none"> <li>☆第4章⑧けがをしたときは（体）</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>3学年避難経路の確認（避難訓練）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬休みの生活</li> </ul>		
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校指導</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>「南吉成の達人」</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>あめ玉（規則尊重）</li> </ul>	
2			<ul style="list-style-type: none"> <li>南吉成の素晴らしさをまとめよう。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>☆第5章⑥つたえようわたしたちのことばで（学）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生きているしるし（生命尊重）</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災関連行事</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>☆第6章①ぼうさい知しきをチェックしよう（学）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>春休みの生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ありがとうの気持ちをこめて（尊敬・感謝）</li> </ul>	

☆副読本活用

## 仙台市立南吉成中学校 第3学年

### 1 学校・地域の実態について

仙台市北西部が学区であり、東日本大震災による被害はほとんどなかった。そのため、防災意識をもち、たずなで中学校に入学する生徒が多い。地域においては、少子高齢化と核家族化が進み、住民間の絆の希薄化が懸念される。11月に実施される地域防災訓練では、中学校と地域の双方向で、防災教育の視点を加えた人的・物的に相互支援する活動を行っている。

### 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

現在および将来を含めた地域防災の担い手の育成を目指す。

### 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

- ・生徒による震災復興・奉仕活動
- ・中学生が主体となり、学校と地域が協働する地域防災訓練の実施

### 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

中学生主導の地域防災訓練を実施したことにより、生徒自身が中学生は地域防災に貢献できると考えられるようになり、自己肯定感・有用感を高め、自信を深めることができるようになった。

#### < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

#### 1 地域防災訓練（年間指導計画 11月）

午前中に3年生が6班(A避難所設営・運営班 B炊き出し調理班 C集団避難・誘導班 D救急・救護班 E災害状況情報収集班 F災害対策本部)に分かれて活動します。

1,2年生は避難終了後、地域毎異学年縦割り活動で作成した防災マップをポスターセッション形式で発表します。

午後から「こころを育む総合フォーラム 2015 in 仙台」に参加します。



#### 2 震災復興・奉仕活動(年間指導計画 7月・11月)

東日本大震災の翌年から、若林区荒浜において「津波被災農家に弟子入り体験」を行っています。これは単なる奉仕活動ではなく、被災者から教えられ、学ぶことに主眼を置き、「弟子入り」と名付けています。最初に津波被災農家の方を南吉成中学校に招き、お話を聞く会を開催します。夏休みに荒浜にお邪魔させていただき、荒浜の現状を見させていただいた後に綿花栽培の除草作業のお手伝いをします。11月に再び荒浜に行き、農家の方々と一緒に収穫祭に参加します。



#### 3 「希望の花」を扱った全校による道徳の授業(8月)

荒浜アグリパートナーズの渡邊氏を題材にした道徳教材「希望の花」(道徳[仙台市版]小学校5年「きみがいちばんひかるとき」光村図書に収録)を全校各クラスで実施します。生徒たちがお世話になった渡邊氏の姿から、諦めずに努力することの大切さを学び、生徒たちの荒浜での活動に一層気持ちが入ります。

防災教育年間指導計画

中学校 第3学年

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活		道 徳	
	4	・校内安全点検 ・安全な登下校指導と通学 路の確認 ・引き渡しカード作成	・集団訓練(保健 体育)			・避難経路の確 認 ・非常時下校体 制の確認	
5	・校内安全点検 ・修学旅行		・修学旅行集団 訓練(緊急時対 応指導)				
6	・中総体 ・避難訓練(地震想定) ・集団訓練 ・地域清掃活動	・情報に関する技 術(技術)			☆地震に備えよ う(3章④) ・避難訓練(地 震・集団行動)	・地域清掃活動 (小中合同)	・自然への畏敬
7	・校内安全点検 ・夏季休業中の安全指導	・機器の安全な 利用と保守点検 (技術)		・津波被災農家 の方々のお話を 聞く会			
8	・校内安全点検 ・七夕祭り会場周辺の清掃 活動	・調理しよう(家 庭)		・防災マップ作成		・地域行事への 参加	・「希望の花」くじ けない心
9	・校内安全点検 ・文化祭		・町内会長さんと 話す会	・防災マップ作成			・郷土を愛する心
10	・運動会	・運動会練習集 団訓練(保健体 育) ・わたしたちと家 庭・家庭と地域 (家庭)	☆情報に振り回 されないために(3 章⑧)				・命あることの喜 び
11	・校内安全点検 ・避難訓練(火災想定) ・地域防災訓練 ・こころを育む総合フォーラム ・復興プロジェクト	南吉成中学校において「こころを育む総合フォーラム 2015in仙台」が開催されました。「次世代に伝えたいこ ころ」をテーマにしたパネルディスカッション(コーディ ネータ阿部芳吉先生)や山折哲夫先生の講話がありま した。			☆地域の一員と して(5章③)		
12	・校内安全点検 ・光のページェント会場周 辺清掃活動	・これからのわた しと家庭(家庭)					・生命の尊さ ・つながり合う社 会
1	・校内安全点検	・地域社会とわた したち(社会)				☆がんばれ日 本！世界は日本 と共にある(5章 ⑤)	・心のふれ合い
2	・校内安全点検	・情報に関する技 術(技術) ・自然の恵みと 災害(理科)			・心肺蘇生法・応 急手当法体験	☆仙台の自然災 害年表・復興年 表(6章③)	・志高く生きる
3	・校内安全点検 ・東日本大震災犠牲者へ の黙祷 ・卒業式						

☆ 副読本活用

## 仙台市立六郷小学校 第4学年

### 1 学校・地域の実態について

六郷地区は、普段から地域の結び付きが強く、互いが助け合い、子供たちを地域の中で育てようとする意識が高い地域である。震災では大きな影響を受け、震災直後には、すぐ本校は避難所となり、支え合い助け合ってきた。だが、中には親や祖父母、親戚などを震災で亡くした児童もおり、精神的に不安定さが見られる子供たちがいる。

### 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

地域の中で、人との関わりを大切にし、思いやりの心を育み、共助の態度を養う。

### 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

思いやりの心を育み、地域とつながる防災教育

### 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

例年と異なり、体育館への避難訓練や避難経路を変えた訓練などを実施してきた。どの学年の児童も目的意識を高く持ち、避難訓練に臨む姿が見られた。特に、津波を想定しての三次避難の場面では、6年生は1年生を、5年生は2年生を自分の机の下へ避難させることにより、共助の態度が芽生えた様子が見られた。また、年間指導計画を基にした地域との関わりを重視した防災教育の中で、“思いやりの心”を持つようになった。

#### < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

#### 1 六郷っ子、元気なあいさつ運動（年間指導計画 6月/7月/10月/11月）

年間4回の“元気なあいさつ運動”を全学年が行ってきた。朝8時から、約20分間程度、学校前の交差点に立ち、子供たちや地域の方々へ向けて行ってきた。「自分から言えた『おはようございます』は、地域の方々から『おはよう。元気でいいね。ありがとう』とパワーアップした挨拶で返ってくるんだね。」とつぶやく児童がいた。あいさつ運動を通して、地域の人たちとの心のつながりを感じた児童も少なくない。



#### 2 人権教育：人権の花運動（年間指導計画 6月）

人権の花運動とは、子どもたちが協力し育てることによって生命の尊さを実感し、その中で豊かな心を育み、優しさと思いやりの心を体得することを目的とした活動である。本校では、4年生が道德の授業で行っている。植えた花は、お世話になっている交番や消防署、六郷の杜(老人ホーム)へ届けた。また、夏休み中には、教員の誘いに賛同した子供たちで交番へ行き、最近の学校の様子を伝えた後に、植物の様子を見せてもらった。自分たちの花がさらに大きく育った様子を見て、子供たちは交番の方々に感謝の気持ちを抱いていた。



#### 3 地域のボランティアの方々への感謝の会（年間指導計画 10月）

本校の教育活動は、たくさんのボランティアの方々のお協力があって成り立っている。子供たちが企画する“若あゆ祭”では、日頃の感謝の気持ちを伝えるために、ボランティアの方々を招待している。子供たちは、知っている方を見付けると、「絵本の〇〇さんだ」「遊びの△△さんだ」と名前を呼んで手を振り、ボランティアさんも笑顔で手を振って応える。微笑ましい場面である。心のつながりを実感するすてきな時間が流れていた。



防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周回的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月		教科	総合	日常生活・特活	道徳		
4	・交通安全教室 (通学路歩行訓練) ・避難訓練(地震①) 「避難経路をおぼえよう」	火事からくらしを守る (社会)				東日本大震災発生 (副読本)	
5	・集団下校訓練① ・交通安全教室 (自転車の安全な乗り方) ・危険箇所チェック ※家庭確認訪問	運動会集団行動 (体育) 天気による1日の 気温の変化(理科)		取りくもう! ボランティア 活動(副読本)	第1章—①		
6	・避難訓練(火災) ・引き渡し訓練 ・フラワーロード (春花植え)	事故や事件からくらしを守る (社会)		・車いす体験 ・手話学習	第2章—① ぐらっときたら	六郷っこ、元気なあいさつ 運動 (2年と合同)	人権教育 (人権の花運動)
7	・救命法研修 (教職員・保護者)	水はどこから (社会)		・点字学習	第3章—①	六郷っこ、元気なあいさつ 運動 (2年と合同)	「相手を思いやり、親切に」
8	小中連携事業	地震のメカニズム を知ろう (理科:副読本)					
9	避難訓練 ・地域防災訓練	一次避難・二次避難・三次避難 (机の下・校庭へ避難・校舎へ)			第3章—②		
10	・集団下校訓練② ・若あゆ祭 ※地域のボランティア の方々への感謝の会	応急手当の方法と 救急車の呼び方 (体育:副読本)	若あゆ祭 「お店屋さんに行こう」		第2章—② 災害から身を守るために (副読本)	六郷っこ、元気なあいさつ 運動 (2年と合同)	
11	・フラワーロード (秋花植え) 小中連携事業		六郷の杜へ 行こう ※地域のおじいちゃん・おばあちゃん と関わろう。			六郷っこ、元気なあいさつ 運動 (2年と合同)	・人権教育 (友達とはななだろう。) ・「お世話になっています」 (日本標準)
12							
1	避難マニュアルの 確認		二分の一 成人式				
2					第5章—①		「拾ったりご」 (日本標準)
3	1年間の防災教育 の評価 次年度防災教育計画 作成				第6章—① 防災知識チェックしよう (副読本) 仙台の災害年表・復興年表 (副読本)	震災を乗り越えて (副読本)	

小中合同のあいさつ運動

## 仙台市立 東六郷小 学校 第6学年

### 1 学校・地域の実態について

- ・震災後、避難所生活を経て元の東六郷地域に戻っている児童と新しい地域での生活を始めた児童がいる。また、震災を機に核家族となった家もあり、震災前と後の生活が大幅に変わっている児童も多い。
- ・震災時1年生だった6年生が、東日本大震災に関してどの程度理解しているのか、また職員がどこまで踏み込んで話をしたり授業を展開したりしているのか戸惑うことも多い。

### 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

「命」を守るために、自ら考え、判断して行動できる児童

### 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント(キーワードで)

地域と連携した防災教育

### 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・神戸の小学校との交流を通して、防災や災害についての意識や知識が高まり、自分の考えを自信を持って発表できるようになった。また、そこで学んだ事を下級生にも伝えていこうとする気持ちにもつながった。
- ・地域、保護者と一緒の実践的活動を取り入れたことにより、自分の命をどのように守るか自助意識が高まっただけでなく、話し合いの際はリーダーとなって進めようとする態度が育ってきた。
- ・地域防災訓練時の防災授業を通して、災害時のための家庭の備えに興味関心を持つようになった。

## < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

#### 1 神戸との交流学习（年間指導計画6月～1月）

12月11日に神戸で行われた「防災教育研究大会」での公開授業に参加するため、6月よりスカイプによる事前の交流活動を行ってきた。交流を重ねて行くにつれ最初は意見交換もあまりできなかった児童が、自分から質問や感想も進んで言えるようになってきた。

授業当日は、スカイプでの事前交流の効果により積極的な意見交換ができた。お互いに学習してきた防災に関する知識交換をすることにより、さらに防災に対する意識・知識も深まった。交流後の児童の感想では、①地域との交流 ②あいさつ ③コミュニケーションの大切さをあげている児童が多かった。



#### 2 地域防災訓練（年間指導計画9月）

前日の大雨により、予定された地域防災訓練は行えず、中学校との合同避難訓練、小学校独自の保護者参加型防災授業、炊き出し、2回目の引き渡し訓練を実施した。

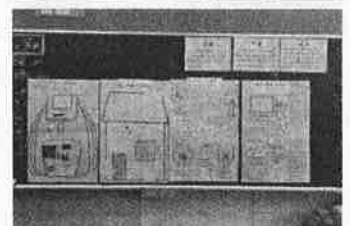
夏休みに職員研修で学んだ「防災ワーク」を4つのグループ（児童+保護者1名が3グループ、保護者のみのグループが1グループ）に分かれて行った。

この授業を通して、児童は予想以上に防災についての知識もあることが分かり、また、自分の考えを積極的に発表したり絵に表したりするなど意識の高さも感じられた。

参加した保護者の感想としては

- ・今回の授業を通して、分かっていたつもり的事やあいまいな事を再確認できた。
- ・自分が震災で経験したことが生かされていないことに気付くきっかけとなった。

などが挙げられた。以前のアンケートで保護者の意識の低さが気になっていたが、保護者の防災に対する考えや備えを見直す良いきっかけとなったばかりでなく、なかなか家庭では話すことのない防災について、子どもと共に考えることができた今回の活動は有意義だと感じた。児童だけでなく地域・保護者を行う活動の大切さを痛感し、今後もこのような活動を取り入れていくことが本来の「地域と連携した防災教育」につながると考えられる。



		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合 【残そう・伝えよう東六郷】	特活	道徳
	関連行事等				
4	交通安全教室 (1年) 歩行 (全) 自転車		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     地域とのつながり                      地域とのつながりを考                      える。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校の安全</li> <li>避難経路の確認</li> </ul>	
5	家庭訪問 不審者訓練  地域清掃① 修学旅行			◎立ち上がれ！僕らの復興 プロジェクト(学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の家の確認</li> <li>訓練の事前事後 指導</li> </ul>
6			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     神戸との交流                      年間を通じてスカイプ                      で情報交換をする。                 </div>		
7	緊急引き渡し訓 練①	◎応急手当の方法 と救急車の呼び方 (体)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     調べる方法を考えよう                      ・東六に関わる人に話                      を聞く、                      神戸交流への準備                      ・発表内容を考える。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みの生活</li> </ul>	◎一番大切な ことば
8		<ul style="list-style-type: none"> <li>大地のつくり(理 科)</li> </ul>			
9	地区総合防災訓 練・防災授業・ 引き渡し訓練② 運動会		◎災害時をくらすヒント (学) <ul style="list-style-type: none"> <li>防災ワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練事前事 後指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>姉妹で運ぶ 物資と笑顔</li> </ul>
10		<ul style="list-style-type: none"> <li>変わり続ける大 地(理科)</li> </ul>	◎取り組もう！ボランティ ア活動	◎Heroes 2011 Japan	
11	地域清掃② 学芸会	<ul style="list-style-type: none"> <li>未来がよりよく あるために(国)</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     調べたことをまとめよう                      ・どんな方法で伝える                      か考える                      ・東六の良さをどのよう                      に伝え残すかを考える。                 </div>		
12	避難訓練(火災)	◎人々をつなげる 活動(社) <ul style="list-style-type: none"> <li>震災復興の願い を実現する政治(社 会)</li> </ul>	◎火災が起きたら(学)  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     神戸等交流を通して学                      んだことをまとめよう                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練事前事 後指導</li> <li>冬休みの生活</li> </ul>	
1					
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>野外活動 (スキー) 1～5年</li> </ul>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     地域とのつながり                      ・地域の一員として、                      どんなことを考えたか                      まとめる。                 </div>	◎大きな災害と人 間の心の動き	
3	東日本大震災関 連行事(故郷復興 プロジェクト)			<ul style="list-style-type: none"> <li>春休みの生活</li> </ul>	

## 仙台市立 六郷中 学校 第3学年

### 1 学校・地域の実態について

3. 11の津波の被災校である。六郷中の校地に、東六郷小が間借りしている状態であるが、生徒は、小学校の児童に思いやりの気持ちを持って接し、児童も元気に明るく過ごしている。ただ、中には家族を震災で亡くし、精神的に不安定な子どもも数名いる。また、保護者でも震災の精神的影響を受けている方もいるのが現状である。

### 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

災害時に生徒自らが冷静に物事を判断し、安全を確保できる力を養う（自助）とともに、集団としての意識も高めた上で行動できる力を身につけさせる。（共助）

### 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント (キーワードで)

「地域と連携して進める防災学習」

### 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

六郷中の防災の目標として、地域との関わりをテーマにしている。あいさつ運動や花壇整備等では、小中学生だけではなく、地域の方々と取り組んだことによって、生徒には「地域づくりに向けての自主性」の向上がみられた。（共助）

年度の地域防災訓練の時には、地域と直接的な関わりを持つことができなかったが、道徳の時間を通して中学生が災害時にどういった役割を果たせるかを考えさせることができた。ただ、防災訓練時に体験活動を行っていないことから、来年度は体験活動の充実を図っていきたいと考える。

#### < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

##### 1 あいさつ運動と花ボランティア（年間指導計画6・10・11月）

六郷小学校～六郷中学校までの通りを「フラワーロード」と名付け、年2回花壇に苗を植えている。これは中学生だけに限らず、東六郷小や地域の方々と一緒に取り組んで作業をし、小学校や地域住民との連携も図っている。また、11月にアルカスの一環として行われた「朝のあいさつ運動」では六郷小学校の5・6年生と合同で行い、南署の生活安全課だけではなく、地域や小学校との連携も深められた。

##### 2 地域防災訓練（年間指導計画9月）

9月12日（土）に「三陸沖を震源とする大地震が発生、これにより津波警報が発令、沿岸地域に津波避難指示が出された。」といった災害想定のもとで、学校・地域団体・防災関係機関が連携を深め、防災対策の構築、初動体制の確立並びに地域住民の連携強化を図ることを目的とした防災訓練を予定していた。だが、9月10日の大雨の影響により、当初予定していた活動が中止。計画を大幅に変更し、校舎からの通常の避難訓練を実施。6月に行った避難訓練と比較するとスムーズな動きが見られた。また、地域住民は設備準備訓練（避難所開設）、生徒は集会・「風評被害」や「地域の一員として」といった道徳、また婦人会によるアルファームと豚汁の炊き出し訓練を行い、想定していた災害とは異なったが、前日に地域にも避難警報が発令されたことにより、災害に対する防災力の向上につながったのではと感じる。





防災訓練を核とした防災教育					中学校 第3学年			
防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度		
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容		
月	教科・領域	教 科	総 合	特 活	道 徳	関連行事等		
	4					学校防災マニュアル確認 避難経路の確認	リーダーの育成、 全体の動きの統一(年間) 集団行動(保体)	
5	引き渡しカード 連絡網の確認	関東大震災と東日 本大震災の比較				修学旅行事前指導 (災害発生時への対 処)		
6	避難訓練(地震)	都市の発展 と社会運動(社 会)				避難訓練(地震)	フラワーロードへ のボランティア参 加	☆一人一人が災 害に備える
7	夏季休業中の安全指導 地域清掃						☆中学生の声 助け合うってすば らしい(2章③)	
8						東六郷小・地域 との合同訓練		・地域行事への 参加
9	地域防災訓練	東六郷地区(空き 地)を今後について		地域防災訓練		仮設トイレ・テント 設置	アルファ米の調 理(地域防災訓 練)	☆地域の一員と して
10		地方の政治と自 治(社会)				東六郷小・保護 者と交流	花ボランティアへ の参加	☆風水害に備え よう
11						芋煮・合格祈願 恵方巻き	地域あいさつ運 動	
12								・3(2)自然愛・畏 敬の念
1	地域清掃	原発・放射線につ いて考えさせる					地域あいさつ運 動 地域清掃	
2		自然と人間(理科) 資源・エネルギー の問題(理科)				東日本大震災の被害を 共感させる		
3	ふるさと復興プロジェ クト			ふるさと復興プロ ジェクト			地域あいさつ運 動 地域清掃	・3(1)生命尊重

地域と連携して進める防災学習

## 1 学校・地域の実態について

本校の学区内にある町内会数は大小合わせて26を数え、これまで地域同士のつながりはあまり盛んではなく、防災に関する意識も町内会によって差が見られた。しかし、震災当時、本校が延べ600名の避難者を震災直後から4月上旬にかけて避難所である体育館に受け入れたことをきっかけとして、連合町内会の防災担当を中心に地域防災の意識の高まりが見られるようになり、3年前から地域と学校が共同で実施する防災訓練を実施するに至っている。

## 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

コミュニケーション力を高め、地域とのつながりを大切にする児童

## 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント (キーワードで)

愛宕中学校や地域と連携して進める防災学習～コミュニケーション力の向上を通して～

## 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

これまで児童は地域内でのつながりがあまりなく、互いの顔が見えないといった実態が見られたが、防災訓練をきっかけとして、地域の方々顔や実態が分かったり、進んで地域行事に参加しよう、地域の方へあいさつをしようという気持ちがより高まったりと、地域に対する意識の向上が見られた。特に高学年児童は、小中合同でのあいさつ運動や交流学习を進めることで、先輩に対するあこがれを持ったり、高学年としての自覚をさらに深めたりすることができた。また、防災に関する授業を保護者へ公開したこともあり、家族で防災に関する話し合いをしたという児童も増え、より一層防災に対しての意識の向上が図られた。

### < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

#### 1 向山地区防災訓練

指定避難所である愛宕中学校と向山小学校を会場とし、二校同時に同じ内容の訓練を実施した。町内会単位での参加が基本となるので、小中学生、保護者もそれぞれの会場に分かれて参加した。中学生、小学校高学年の児童生徒は地域の大人に混じってそれぞれ役割分担をして訓練に参加し、小学校低中学年児童は防災に関するビデオを見るなど、それぞれの成長に合わせた訓練内容となった。



#### 2 防災授業の公開

本校では学校公開日に合わせ、毎年引き渡し訓練を実施しているが、今年度は全校で防災に関する授業を実施した。教科・領域に関しては学年に応じ、年間カリキュラムの中で教科と関連させて指導を行った。右の写真は特別支援学級の授業の一場で、防火管理者である教頭先生が、防災倉庫を開けてくださり、中を見学している様子である。その際、保護者も一緒に見学した。



#### 3 小中合同の故郷復興プロジェクト(あいさつ運動)

年間3回の故郷復興プロジェクトの日程を愛宕中学校と合わせ、生徒会と児童会が合同であいさつ運動を実施した。中学生が小学校に来たり、小学生が中学校へ行ったりして一緒に運動を行った。



防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合 (5年テーマ ～食～)	特	活	道	徳
4	・小中合同会議(愛宕中) ・非常放送聞き取り訓練 ・地区訪問		総合的な学習を通してお世話になる方との交流学習。	・避難経路確認 ・安全なくらし	・Good Communicationとは? ・話し方、きき方モデル		
5	・復興プロジェクト① (小中合同あいさつ運動) ・避難訓練・不審者 ・5年田植え ・学校ボランティア防犯巡視交流会	中学生と合同のあいさつ運動① 地域の方との給食交流会		学年に合わせ、学校全体でコミュニケーションの在り方の確認	・児童会と自分の役割		・自分をみがいて 1(3)自律的で責任ある行動を
6	・授業参観 ・引き渡し訓練 ・避難訓練・地震 ・おもしろフェスティバル	※じょうずに使おう 食と物(家庭) 授業参観の際に防災に関する授業を公開する。(地域への発信)			・野外活動に向けて		・人とつながって 2(1)礼儀正しく真心を持って
7	・5年野外活動 ・小中情報交換会 ・夏季休業中の安全指導	・心の健康(保健) 心と向き合って(4章⑧)		・有意義な夏休みにしよう			・命をいとおしんで 3(1)自他の生命を尊重して
8	・小中合同研修会 ・小中高合同ふれあいコン ト ・体振主催夏祭り				・地域行事への参加		
9	・中学生陸上記録会指導 ・陸上記録会社行会 ・5年稲刈り	・台風と天気の変化 (理科)いろいろな自然災害(3章③)			地域行事への参加で、共助の心と態度を養う。		
10	・学区民運動会 ・向山地区防災訓練 (向山小学校、愛宕中学校)	・流れる水のはたらき(理科) ※わたしたちの生活と環境(社会) (3)自然災害を防ぐ 家族防災会議を開こう(4章④)	社会科での避難所の確認と避難経路の設定学習、副読本を使用した災害への備え学習を通して、向山地区防災訓練に備える。 防災訓練を通して、各係活動の内容、実際を学ぶ。	・防災について考えよう 災害が起きたら(4章①)	災害に備える(4章③) 事後アンケートによる意識等の実態の把握		・みんなとつながって 4(3)自分の役割を自覚して
11	・復興プロジェクト② (小中合同あいさつ運動) ・1,2年どんぐりの森づくりプロジェクト ・避難訓練・火災 ・職場体験発表会 (6年生参加)	中学生と合同のあいさつ運動② 全校集会の中で、震災の当時の学校の様子の話を聞いたり、震災のビデオを見たりして3.11に思いを寄せる。		地域行事への参加で、ボランティアの精神と態度を養う。	立ち上がれ!ぼくらの復興プロジェクト(2章④)		
12	・伊達家御廟清掃	・情報化した社会とわたしたち(社会)			取り組もう!ボランティア活動(5章③)		
1	(・小中打合せ) ・小中交流会 (6年生参加)	・情報化した社会とわたしたち(社会)災害時の情報手段(3章④)					
2	・全国英語活動実践研究大会 仙台市大会	・わたしたちとメディアとの関わりについて考えよう(国語) ・わたしたちの生活と環境(社会)	外国語活動を通して培ってきたコミュニケーション力を授業公開という形で発表する。				・自分を見つめ豊かに生きる
3	・復興プロジェクト③ (小中合同あいさつ運動)	中学生と合同のあいさつ運動③ わたしたちの生活と環境(社会) ・けがの防止(保健)			・最高学年への準備		・道徳の時間に学習したこと

※:カリキュラムの入れ替え 下線:副読本活用

## 仙台市立愛宕中学校 第1学年

### 1 学校・地域の実態について

- ・震災で校舎が使えなくなったこともあり、地域防災訓練についての理解と協力性が高い。
- ・生徒の協力性も高いが、指示されて動くことが多く、自ら考え判断する力は高くない。

### 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- ・地域の一員として、進んで働ける生徒

### 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

- ・状況判断ができる生徒育成をめざす防災学習

### 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・「自助」「共助」の心構えを理解した生徒が増えた。
- ・地域防災訓練に積極的に行動できた生徒が増えた。 (前年度78%→今年度89%)

#### < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

##### 1 地域の方々と防災打合せ(年間指導計画8, 9月)

8月と9月に防災訓練に向けて、生徒と地域の方々が打ち合わせを行う。8月は顔合わせと仕事の内容を確認する。9月は、さらに細かく、この物資は誰がどこからどこへ運び、どのように訓練するかなどを具体的に話し合う。このことにより、生徒たちは当日の動きを理解していく。



##### 2 地域防災訓練(年間指導計画10月)

10月17日(土)に行われた「向山地区防災訓練」では、計画に従い①避難訓練②被害状況報告訓練③避難所設営訓練が行われた。③の訓練では、生徒は分担された班(総務班、名簿班、連絡・広報班、食料・物資班、炊き出し班、救護班、衛生班、設営班)毎にそれぞれの仕事に取り組んだ。下の写真は、左からアルファ米炊き出し、仮設トイレ設営、応急処置である。生徒たちは、臨機応変に判断し、進んで地域の方と協力して活動することができた。



目指す生徒の姿 ・ 地域の一員として、①正しく理解し【知識】、②進んで仕事に取り組める【態度】生徒					
防災対応力の構成要素		知 識	技 能	態 度	
学 習 内 容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	関連行事等	教科・領域	総 合	特 活	
		教 科	道 徳		
4	・ 防災オリエンテーション ・ 校内安全点検	・「集団訓練」(保体)	校内と校外の随行事における避難の方法を確認する。	・ 安全な登下校指導と通学路の確認 ・ 避難方法と経路の確認	「自己をみつめる」1- (5)
5	・ 校内安全点検 ・ 故郷復興プロジェクト ・ 校外学習	・「応急処置の方法」(保体)	校外学習時の緊急対応	・ 連絡網の確認 ・ 避難方法と避難経路確認	「生命の尊さ」3- (1)
6	・ 校内安全点検 ・ 避難訓練		副読本 P10「絆を力に一歩ずつ」	・ 市中総体時の災害発生時への対応	「社会生活ときまり」4- (1)
7	・ 校内安全点検 ・ 教育相談 ・ 地域清掃	・ 水泳「着衣水泳」実習「心肺蘇生法」(保体) 副読本 P44～45	副読本 P40「自分の身は自分で守る」	・ 合唱コンクール(安全指導と災害対応) ・ 夏期休業中の安全	「いのち」3- (1) 副読本 P14「助け合うってすばらしい」
8	・ 校内安全点検 ・ ふれあいコンサート ・ 地域の方々と防災打合せ①	地域の方々との交流を通して、地域とともに活動するという防災の意識を高める。	○災害時どうするか<1>(地域との交流)	・ 総合体験学習(防災グッズ、キャップハンディ)	
9	・ 校内安全点検 ・ 学習発表会 ・ 生徒会主催体育祭 ・ 地域の方々と防災打合せ②		○災害時どうするか<2>(避難所設営とは)		「集団生活の向上」4- (4)
10	・ 校内安全点検 ・ 地域防災訓練 ・ 校内球技大会	ここまでの防災教育実践の場と捉え、自ら考え進んで行動するように事前指導する。	防災訓練に向けて事前学習 副読本 P42「家庭でできる災害への備え」	・ 新入大会時の災害発生時の対応 ・ 防災訓練の大切さ	「支え合う家族」4- (2) 副読本 P50～51「はじまり」
11	・ 校内安全点検 ・ 故郷復興プロジェクト	・ AEDの使い方(保体)		・ オーケストラ鑑賞会(安全指導と災害対応)	「感謝の心」2- (6)
12	・ 校内安全点検 ・ 教育相談				「かけがえのない家族」4- (6) 副読本 P46～47「心の健康を守るために」
1	・ 校内安全点検	副読本 P24「地震を科学の目でとらえよう」	・ 野外活動事前準備「気仙沼調査」	気仙沼地区の被災状況にも触れ、活動の中にボランティア活動を組み入れていく。	「平和を願って」4- (10)
2	・ 校内安全点検	・「大地の変化」(理科)	・ 野外活動事前準備「気仙沼調査」		「心を開いて」2- (5)
3	・ 校内安全点検 ・ 故郷復興プロジェクト ・ 卒業式	防災学習を振り返りながら、震災の日を考える。	・ 野外活動事前準備「気仙沼調査」	副読本 P58「防災知識をチェックしよう」	「命あるもの」2- (2)

## 1 学校・地域の実態について

茂庭台小は、太白区西部の丘陵地に位置し、東日本大震災被災直後約2年間にわたり北校舎2階より上の教室への立ち入りが禁止となった。その間、茂庭台中や地域の協力を得て、技能教科等の特別教室を使用する学習活動に取り組むことができた。

震災以来、本校では防災の日を設け、地震時の避難訓練や命に関する道徳の授業を行ったり、地域の方を交えた全校集会を開き、自分たちにできることを話し合ったりしてきた。また、今年度は日程や内容の調整を図り、3年ぶりに地域との合同防災訓練を実施することができた。さらに、来年度は茂庭台中も参加して小・中・地域の三者合同の防災訓練を計画している。

## 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

〈自己肯定感〉かけがえのない自分の命を自分で守る子ども（自助）

〈自己有用感〉当番・係活動を通して学級の役に立つ子ども

困っている友達を優しく助ける子ども（共助）

## 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント (キーワードで)

新防災副読本と防災関連室（絆ルーム）を活用した防災学習

## 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・児童は地震が身近に起きることを自分事として実感し、防災意識が高まったり各種訓練に真剣に取り組んだりした。
- ・実際に地震が起きた際、教師の指示がなくとも進んで即座に頭部をかばう等、自分の命を守る行動をとることができる児童が増えた。
- ・日直や給食当番などの自分の役割を一生懸命に行う児童が増えた。

### < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

#### 1 授業（年間指導計画5月） あの日 2011・3・11

「地震が起こった時、どのような行動をとればよいのか考える。」ことをねらいとした。東日本大震災時、本校も大きな被害を受けている。日本は地震大国であるので、絆ルーム（防災関連室）を活用し自分事としていつ何が起こるか分からないということをとらえさせた。実際に絆ルームを作った防災主任をゲストティーチャーとして招き、本校の被害の様子や絆ルームに寄せる思いを話してもらったことにより、子どもたちの掲示資料への興味・関心を高めることができた。絆ルームの説明後、自由に掲示資料を見学した時、興味深げに見学する姿が見られた。今回の授業により、安全な場所で頭を守るという本時の学習内容の定着を図ることができた。



#### 2 地域防災訓練（年間指導計画6月）

今年度、3年ぶりに地域との合同防災訓練を実施した。1校時に新防災副読本の映像による導入を行い、「たった一つもの」の道徳の授業を行った。2校時は連合町内会による防災訓練（仮設トイレの組み立てや発電機の使い方の見学）、非常用持ち出し袋や学校にある備蓄品の見学をした。3校時は地震による避難訓練、4校時は引き渡し訓練を行った。実際地震が起きたときの対応について体験を通して理解が深まった。



茂庭台小学校 学校

第 1 学 年 ( 防 災 教 育 ) 年 間 指 導 計 画

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
月	学習内容	防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳		
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学区・通学路の安全確認</li> <li>避難訓練(避難経路, 避難場所確認)</li> <li>ミニ防災訓練</li> <li>交通安全教室(全)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>はきはきあいさつ(国語)</li> <li>ゆうぐあそび(体育)</li> </ul>	<p>年度当初に避難経路と避難場所の確認し、いつ災害が起きても避難できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校のいきかえり(登下校の安全)</li> <li>◇ひなんのときはおちついて(避難経路の確認)</li> </ul>		<p>※あいさつ運動(通年) どんな1ねんせいになるのかな(愛校心)</p>	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会</li> <li>不審者対応訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなであつがくろがあるこう(生活)</li> <li>運動会, 集団行動(体育)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>不審者が学校に侵入したときの対応について知る。</li> <li>◇こわいゆうかい</li> </ul>	<p>☆☆あの日2011. 3. 11</p>	<p>★があつこうたんけんで(感謝・愛校心)</p>	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合防災訓練</li> <li>避難訓練(地震)</li> <li>緊急時児童引き渡し訓練</li> <li>交通教室(自転車)</li> <li>花植え(1,6年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家のまわり, 学校のまわり(生活)</li> <li>どうやってみをまもるのかな(国語)</li> </ul>	<p>東日本大震災について理解する。 命の大切さについて理解する。 防災に備え必要な物を持ち出せるよう準備をすることの大切さを知る。 学校での地震時の避難の仕方を知る。 引き渡しの仕方を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★総合防災訓練 たつたひとつのいのち(1章3)(6章1) 防災リュック・仮設トイレ組み立ての見学</li> <li>★緊急時児童引き渡し訓練(事前, 事後指導)</li> <li>◇じてんしゃにのるとき(交通教室)</li> </ul>	<p>身近にも地震が起り、被害が出ることを理解させる。 地震のときは安全な場所で頭を守ることを理解する。</p>	<p>困っている人に親切に(思いやり, 親切)</p>	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>もにちゃんまつり</li> <li>防犯教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水遊び(体育)</li> <li>なんじ, なんじはん(算数)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◇あつきせつには</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みの生活</li> </ul>	<p>楽しかったよ, もにちゃんまつり(思いやり, 親切) 気持ちのサインを送ろう(感謝)</p>	
8	(地域行事へ参加)				地域行事への参加		
9	不審者対応訓練	おもいだして書こう(国語)			☆生きるために必要なこと(4章⑨)		
10				◇楽しい校外学習		★学校の生活をたのしく(愛校心, 開校記念日)	
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練(火災)</li> <li>学習発表会</li> </ul>		<p>火災時に生命の安全をまもるための必要な知識や態度を身に付ける。</p>	◇避難訓練(事前・事後指導)			
12				◇さむいきせつには	冬休みの生活	いのちをたいせつに(生命の尊重)	
1						ともだちとなかよく(信頼友情)	
2		もうすぐ2ねんせい(生活)			☆ひなんじよでのくらし(2章①)	まりちゃんとかさがお(生命の尊重) かぞくのやくにたつことを(家庭愛)	
3	故郷復興プロジェクト			☆☆あの日をわすれない	春休みの生活	☆どうぶつたちのいのち(散けん) もうすぐ2ねんせい(愛校心)	

★防災関連室

☆:新防災教育副読本

◇:わたしたちの安全

## 1 学校・地域の実態について

- ・仙台市西部の住宅団地で、戸建ての住宅や高層住宅、市営住宅に分かれている。
- ・町内会の防災に対する意識に差はあるが、総じて高い。地域で防災訓練も実施しているが、地域の一員としての中学生の参加の状況はあまり多くはない。

## 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- ・災害に対する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、自らの安全を確保できる生徒。
- ・地域の一員として人々とのコミュニケーションを日頃から築き、非常時には進んで他の人や地域のための力となる生徒。

## 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント (キーワードで)

- ・非常時に自助、共助の考えで行動できるための防災学習。

## 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・学年単位で、非常時に冷静に判断して行動するための正しい知識や対応方法について学ばせてきたが、学年が上がるにしたがって、防災への考え方が少しずつ深まってきている。

## < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

### ① 総合防災訓練(年間計画 6月実施)

学級で『新防災教育副読本』を用いて意識付けをした後、学年に分かれ「応急法訓練」「AED・心肺蘇生法訓練」「クロスロード」を実施した。それぞれ講師には消防署の方や地元消防団の方をお願いしている。

約1時間半の実習の後、全校集会形式で評価をした。その後、地域にある三カ所の指定避難所ごとの集合確認訓練を実施した。この際、地域ごと3年生を中心に整列するとともに、集会時に配布した『被害状況情報カード』を回収しながら点呼作業を行った。

今年で3年目の訓練となったが、3年間を通して自助・共助の考え方に基づいた訓練を行うことで、生徒たちは自分でできること、他のためにできることをしっかり学習したと思われる。

今後は、この3年間の経験を生かしつつ、小学校や地域と合同での指定避難所への避難訓練を実施するなど、地域ぐるみで防災・減災に取り組んでいきたいと考えている。

### ② 太白山清掃登山(年間計画 10月実施)

太白区の象徴でもある太白山は、本校から徒歩で30分圏内にあり、生徒たちは身近な山として親しみの気持ちを抱いている。地域の一員として山を清掃しながら登り、地域を360°見下ろすことで、自分たちの住んでいる地域を目の当たりにすることができる。





第1～3学年 防災教育年間指導計画

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺的・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳
	4	・始業式, 入学式 ・PTA総会(引き渡しカード説明)	・①「校舎巡り」 (非常口, 避難 路の確認)<学 活>	・地域避難場所 の確認	・登下校の安全 ・避難経路の確 認 ・非常時下校体 制の確認
5	・生徒総会 ・①校外学習 ・②野外活動 ・③修学旅行	・②「日本の様々な 自然災害と防災」 (社会) ・②「やさしい日本語」 (国語)	・A旅行的行事 での災害時の 対応を学習		☆p58～60「防 災知識のチェッ ク」
6	・A総合防災訓練 ・市中総体 ・避難訓練(地震)	・②「火山と台 風」「ハザード マップから防災 を考える」(社 会)	・地震災害への 備え	・災害に対応する 技能を学ぶ(①救 急法, ②AED使 用法, ③クロスロ ット) ・地域の一員としての自覚 を高める ・総合防災訓練事前事後 指導 ・避難訓練事前事後指導	☆p20～21「復興 計画を知る」 ☆p38～41「災害 に備える」
7	・合唱コンクール ・県中総体	・①「多賀城と 貞観地震」(社 会)・①身の回 りの物質の変 化(理科)		・夏休みの生活 ・地域にある危 険箇所を確認 する	
8	・②職場体験		・地域を知る		・地域行事への 参加
9	・文化祭 ・防災の日	・A「災害につい ての学習」 ・③「行政機関 と防災」(社会)			・東日本大震災 から学ぶこと
10	・①天文台学習 ・③太白山清掃登山 ・終業式, 新入大会, 始業式 ・運動会, 芋煮会	・③「ボランティア 活動とNPO(阪 神淡路大震災を 契機として)」(社 会)	・③「地域の地 形を知る」		
11	・復興プロジェクト ・避難訓練(火災)	・A「復興ソング の練習」(音楽)	・火災への備え	・避難訓練事前 事後指導	☆p28～31「知 新に備える」 ☆p6～7「復興 にかける」
12		・③「自然の恵 みと災害」(理 科)		・冬休みの生活	☆p22～23「世界で最も自 然災害のリスクが高い日 本」 ☆p24～25「3.11の地震を 科学の目でとらえよう」 ☆p30～31「風水害に備え よう」
1	・③私立入試	・③「社会参画 と地域への貢 献」(社会)			☆海をこえてき たおくりもの(5 章②)
2	・③公立前期選抜入試	・①「大地の変 化を読みとる」 (理科)	・A「3.11に向 けて思うこと」		
3	・公立後期選抜入試 ・卒業式, 修了式	・①「地層と災 害」(理科) ・A「復興ソング の練習」(音楽)			☆p26～27「地 震に伴う災害 について知る う」

○数字は学年 Aは全学年

☆ 副読本活用

## 仙台市立生出小学校 第2学年

### 1 学校・地域の実態について

学区は生出地区・赤石地区・統合した坪沼地区と峠を挟んで大きく3地区に分かれている。さらに生出地区内でも人来田・榎平地区は距離的にはかなり離れている。各地区とも非常時の一時避難場所は各地区集会所になっており、町内会の体制はしっかりしている。指定避難所は生出小と隣接する生出中の2か所があり、さらに連合町内会では、市民センターを含めて3か所を避難所として計画を進めている。坪沼地区はコミュニティーセンターが指定避難所となり、地域が自主的に運営することになっている。

### 2 H27新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

互いに助け合うことのできる児童（やさしく）      自分の役割を考え協力して行動できる児童（かしこく）  
自分の命は自分で守ることのできる児童（たくましく）      ※学校目標と連動

### 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る、年間指導計画上のポイント

地域（保護者）と連携した防災教育      自分で自分の命を守る防災教育

### 4 年間指導計画に基づいて指導した結果、児童生徒はどのように変容したか。

- ・中学校や地域との合同の防災訓練に参加し、地域の人や中学生が真剣に取り組む姿を間近で見ることにより、地域の一員として、児童もより真剣に取り組む様子が見られた。
- ・学んだことを下級生に伝える活動を加えることで、より防災への意識や復興への関わりへの意識が強くなってきている。

### <年間指導計画に基づいた実践の具体>

#### ○小中合同防災訓練（年間指導計画6月）

H21から小中合同の防災訓練を実施している。始めに地区ごとに集合し中学生が小学生の点呼を行い、コミュニケーションゲームを行った。その後、それぞれの発達段階に応じた諸訓練（消防車見学・水消火器訓練・救命救急訓練・濃煙体験・仮設トイレの組み立て、消火栓放水訓練など）に参加した。同じ地区の幼児から中学生までがコミュニケーションを図る良い機会となった。



#### ○2年生 まちを探検しよう・防災安全マップを作ろう（年間指導計画5・6・10月）

通学路の防災・安全の視点を加えて生活科のまち探検の活動を行った。当校の教育目標「たくましく」の自分の命は自分で守る意識を育てている。授業参観の際に発表会を行い、保護者にも通学中の防災について考えてもらう機会とすることができた。



#### ○生出地区連合町内会合同防災訓練（年間指導計画11月に追加）

町内会と合同の防災訓練を実施。小中学生が地域の方と顔合わせを行った。地域の方に同じ地区内の子ども達のことを知っていただくよい機会となった。大人が参加することで、子ども達にも緊張感が出て真剣に取り組んでいた。また、親子で防災について話す機会にもなった。



生出小学校防災教育計画(2年)

月	防災対応の構成要素	知識		技能		態度
	学習内容	防災や災害に関する 周辺の・基礎的内容		防災や災害に関する 直接的内容		防災や災害に関する 間接的な内容
	教科・領域 関連行事	教科等	生活科	特活	道徳	
4	入学式 交通安全教室 非常放送訓練 集団下校訓練	(児) たて割り活動			通学路の 安全な歩き方 いっしょに まえへ 【副】 P6	
5	救命救急講習		まちを探検しよう			考えよう、 友だちのこと 【副】 P12
6	運動会 小・中合同防災訓練 防災訓練に 参加しよう 【副】 P38	地区ごとに集 合し、小中学 生の顔合わせ を実施。	まちを探検しよう ぼうさいマップを作ろう 【副】 P28	町たんけんを通して、 通学路や学区の中 での危険箇所につい ても触れていく。		
7	よつばフェス(児) 復興プロジェクト① 長期休業前朝会		「川で遊ぼう」 環境・川学習 (環境・安全・ 防災)	夏休みの 生活につい て 津波につい て 知ろう 【副】 P22		
8	長期休業後朝会 環境川学習	(体)「着衣泳」				
9	地域合同防災訓練 (行)防災リュッ クを用意しよう 【副】 P36	H27は11月の 土曜日に授業 参観と一緒に 実施。 H28は日程を 協議中。			地震や火事・風 水害について 知ろう 【副】 P20・ 24	
10	交通少年団 コミュニティーま つり		まち探検をしよう			
11	学芸会 復興プロジェクト②	(音)復興ソング 【副】 P1 復興を目指して 【副】 P16				
12	長期休業前朝会				冬休みの 過ごし方	見つめよう 私の心 【副】 P44
1	長期休業後朝会					手をつないで 【副】 P50
2			あしたへ ジャンプ		私たちに できること 【副】 P54	
3	復興プロジェクト③ 卒業式		防災知識をチェックしよう 【副】 P46		さいがいが年び ょう・ふっこう 年びょう【副】 P56	

## 仙台市立 生出中 学校 第1学年

### 1 学校・地域の実態について

- ・生徒数が少なく、小規模の学校である。小学校が隣接し、通路でつながっているため、小中連携、さらに小学校内にある幼児学園との関わりも持ちやすい。
- ・坪沼、赤石等自宅から学校までが遠い地区は交通の便が悪く、地域の乗り合いタクシーや一般のバスで通学している。
- ・坪沼地区は山間部であり、狭い道も多く、地震の揺れによっては土砂災害の恐れもある。
- ・三世代の家庭が多く、祖父母や幼い兄弟と生活している生徒も多い。

### 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- ・自らの命や身体を守るために主体的に判断し行動できるとともに、災害時に活用できる能力を習得した生徒（自助）
- ・家族や地域の一員としての役割を意識し、地域の役に立とうとする姿勢と主体的に行動しようとする姿勢を持った生徒（共助）

### 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

児童生徒及び地域の方々の顔が見える関係を築く防災教育

### 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

小中合同防災訓練や地域防災訓練に参加し、幼児や小学生、また地域のお年寄りと関わることで、非常時に自分たちに何ができるかを考えるようになった。また、地域の中で、中学生の果たす役割の大きさを自覚したことで、地域の行事や市民センターまつりなどに多くの生徒がボランティアとして参加するようになった。

#### < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

##### 1 小中合同防災訓練 6月23日（火）

始めに、小中別に災害発生校内放送による震災時集団避難訓練を行った。校庭に避難後、中学校体育館に移動し、小学校、幼児学園と合流。町内会ごとに集合し、中学生を中心に地区名簿で人員確認をした。その後、顔が見える関係を築くため、幼児、児童、生徒が顔合わせのゲームを行った。学年ごとの隊形に整列し直し、防災訓練を行った。幼児学園、小学校低学年は消防車体験と煙体験。小学校中学年は初期消火活動訓練と煙体験。そして、小学校高学年と中1は応急手当訓練として、止血法とAED操作を学んだ。中2は和式と洋式の簡易トイレを、組立説明書を頼りに生徒だけで協力し、組み立てた。中3は学校施設点検業者の方の指導の下、消火栓を開けて放水訓練を行い、担架搬送訓練を体験した。

これらの活動は災害が起きた時に必要な技能や知識を小中の9年間で体験できるように継続して行われている。

##### 2 地域防災訓練 11月21日（土）

生出地区住民の非常時の連携や緊密な協力体制確立のため、関係機関と一体となって約300人が参加して実施。住民の自助、共助の意識を高め、自主防災活動の活性化を図ることを目的として行い、生徒はその様子を見学した。中学校の体育館に避難し、町内会ごとに集合した住民が、避難所安全確認後、幼・小・中の子供たちと合流し、町内会ごとに自己紹介し、誰が誰の家の子供なのか確認した。その後、食料・水・防災グッズを配布し、災害時の配給体制を確認。その後、災害対策本部と指定避難所間の防災無線操作を行い、中学生は災害情報等収集・連絡訓練の様子や避難所運営委員会の話合いの様子を見学した。



平成27年度 防災教育年間指導計画

生出中学校 第1学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合	特活	道徳		
	関連行事等						
4	・非常時下校体制の確認 (緊急時引き渡しカード)	・集団訓練 (保体)		・情報収集の方法とその活用	☆東北地方太平洋沖地震発生(1章①) ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認	・自転車の安全な乗り方と使用前点検について	
5		・薬品やガラス器具の使い方 (理科)	☆絆を力に一歩ずつ(2章①)		☆自分の身は自分で守る(4章②)		・2(2)思いやり(助けあう、支え合う)
6	(小学校区運動会) ・中総体 ・小中合同防災訓練	・水泳の事故防止について(保体)	・仙台を知ろう	小中合同災害対応訓練に向けて、防災について考えさせ	☆家庭のできる災害への備え(4章③) ・災害対応訓練(緊急)	・災害時の安全な避難の仕方 ☆中学生の声助け合うってすばらしい(2章③)	
7	・地域探究 ・夏季休業中の安全指導 ・家庭訪問	・調理実習における注意(家庭)		・雷の危険と風水害について ・体験活動のまとめ		中学生が地域と共に復校に取り組んでいく様子を学ばせ、地域のために役立とうとする態度を養う。	
8	(夏祭りなど地域行事)	・アジアの国々人口の集中と災害(社会)		知っておきたい心肺蘇生の方法とAED(防災副読本4章④)を実際に災害対応訓練で体験する。		・地域行事への参加	
9	・文化発表会 ・かかしまつり	・着衣泳(保体)					・4(8)郷土愛・先人への感謝(郷土の再発見)
10	(生出コミュニティまつり)	・集団行動と協力性(保体) ☆家庭のできる災害への備え(4章③:体育)				・自転車の交通ルール(夜間の乗り方と安全)	・4(6)家族愛(家族とのふれあい)
11	・避難訓練 ・地域防災訓練	・南アメリカの自然環境が日本に与える影響(社会)	☆地域の一員として(5章③)	中学生ができるボランティアについて自ら地域の行事に参加しようとする共助の心と態度を養う。			☆はじまり(5章②)
12		・健康と身体(体のしくみ)(保体) ・床に落ちているものの危険性(技術) ・大気の動きと日本の天気(理科) ☆3.11の地震を科学の目でとらえよう(3章②:理科)					・3(2)自然愛・畏敬の念
1		・火をふく大地(理科) ・放射線の性質(理科) ・心身の機能の発達と心の健康(体育)					
2		☆心の健康を守るために(4章⑤:体育) ・動き続ける大地(理科) ・大地の変化を読み取る(理科) ・自然の恵みと災害(理科)		1年間の防災学習について振り返り、自分ができることをもう一度確認する。		東日本大震災に思いを寄せ、命の大切さについて考えさせる。	☆心の交流会(2章④)
3					☆防災知識をチェックしよう(6章①)	☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	・3(1)生命尊重(命を守る)

☆ 副読本活用

## 仙台市立郡山小学校 第1学年

### 1 学校・地域の事態について

学校：総合的な学習などで地域からゲストティーチャーとして協力を受けるなど日頃から地域との関わりが強い。  
地域：大規模水害時には全域が浸水することが想定されていることもあり、地域防災訓練にも深く関わり防災に対する意識が高い。重点目標検討会を持ち、共に学校の教育目標を決めている。

### 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- 災害に対する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、自らの安全を確保できる児童（自助）
- 非常時に進んで他の人や地域の力になれる児童（共助）

### 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

- 他の人や地域の力になるための防災学習

### 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童はどのように変容したか

下学年：各家庭での震災対策や震災時の連絡先を聞いたり話し合ったりしながら、家族との約束を守ることや家族で決めた自分の役目を果たすことの大切さに気付いた。

上学年：家族防災会議で話し合ってきたことを共有し、震災時に地域・家族の一員としてできることの幅を広げた。

### 〈年間指導計画に基づいた実践の具体〉

#### ○地域防災訓練

##### ①震災時集団登校訓練

児童は、各地域の第1次避難所から中学生・保護者・地域の防災班とともに登校した。1学年児童は、各地区の6年生や中学生、防災班の指示に従い説明を聞いたり整列したりと、緊張感のある姿が見られた。

##### ②防災授業「家族防災会議を開こう」

学校目標「もっと人のために働こう」を受けて、全学年で「家族防災会議を開こう」をテーマに防災授業を行った。震災時に自分のできることを家族と話し合うことが、家族や地域のために行動する姿につながると考え、授業のねらいを次のように設定した。

上学年「震災時、自分がどのように行動したら良いか家族で話し合っておく必要性を理解し、家族防災会議を通して家族・地域のために自分ができていることを考える。」

下学年「震災時、自分がどのように行動したら良いか家族で話し合っておく必要性を理解し、家族の決まりや自分の役割を知ることができる。」

防災担当が提案した指導略案をもとに、全学年、前時の授業として家族防災会議の必要性について学習した後、各家庭で「放課後、自宅近くの友達の家で遊んでいたとき、大地震が起きたらどうするか」という状況設定のもと、避難先や連絡先、危険を回避するための方法などを話し合わせ、宿題としてワークシートに記入させた。

本時には、そのワークシートをもとに各教室で話し合い活動を行った。下学年では、各家庭での震災対策や震災時の連絡先を聞いたり話し合ったりした上で、家族との約束を忘れずに守ることや家族で決めた自分の役目を果たすことの大切さに気付くことができた。上学年は、火の始末・逃げ道の確保・食糧の買い出しや小さな子・高齢者に寄り添うことなど、友達の発表も聞きながら家族・地域のために自分にもできることを探すことができた。

他の人や地域の力になるための防災教育

小学校 第1学年

防災対応力の構成要素		知 識	技 能	態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教 科		特 活	道 徳
	関連行事等				
4	避難訓練(不審者) 防犯ボラ感謝の会	はきはきあいさつ(国) すたあとぶつく(生) がっこうだいすき(生)	地域防災訓練に向けて、防災意識を高めていく。	ひなんのときはおちついて(安全)	どんな1ねんせいになるのかな(読)
5	帰宅先確認週間 交通安全教室	ともだちにはなそう(国)			まりちゃんとあさがお(読)
6	避難訓練(地震)	きいてつたえよう(国)	避難の経路や訓練の心構えを確認する。 副読本の活用を図る。	じしんからじぶんをまもろう(学)	あの日をわすれない(防)
7	復興プロジェクト	こんなことをしたよ(国)		ふっこうにむけて(防)	
8	集団下校訓練		集団登校訓練 各地区の第1次避難所から地区の防災班とともに学校に向けて避難する。		
9	コミセンまつり	はなしたいなききたいな(国)			
10	地域行事に参加し、地域の一人という意識を高める。		防災授業		ぼんたとかんた(読)
11	地域防災訓練 防災授業 避難訓練(火災)	じぶんでできるよ(生)	「かぞくぼうさいかいをひらこう」 ①家族会議を開き、各家庭の防災対策や避難先・連絡先について話し合う。 ②各自が話し合ってきたことを発表し合い、自分でも出来ることを探り、家族や地域のためにできることを考える。	かぞくぼうさいかいをひらこう(学)	ひなんのときはおちついて(安全)もしものときに(防)
12					きいろいベンチ(道)
1		はがぬけたらどうするの(国)			
2		「じゃんけんやさん」をひらこう(国)			
3					みんなの力で(防)

## 1 学校・地域の実態について

本校（児童数674名）では、平成25年4月より、災害から自らの生命を守るために必要な能力や態度を身につけたり、防災に関する意識の高揚を図ったりするなど、従来の防災・安全教育をより強化するとともに、助け合いやボランティア精神など「共生」の心を育む教育を実践してきている。

## 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

【自助】 災害から自分の命を守り、安全を確保できる児童

【共助】 災害時に進んで他の人や地域の力となれる児童

## 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

災害から 自らの力で 命を守り、共に生きる防災教育

## 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

防災訓練等の際には、真剣に取り組み、集団で避難移動するときには、整然と歩き整列することができる。しかし、受動的で消極的な児童が多いという児童の実態があった。児童の弱点を補うべく多くの体験学習を計画、実践した。体育の「水上安全教室」では、水難の際の自助と共助について体験を通して学ばせた。総合的な学習では、地域の川を利用した「川に学ぼう・川で遊ぼう」の体験学習に取り組み、自然とのつきあい方を学んだ。さらに防災年間指導計画に基づいた指導などの成果が現れ、自信が芽生え積極的にあいさつを交わし、児童に笑顔と元気が見られるようになってきている。

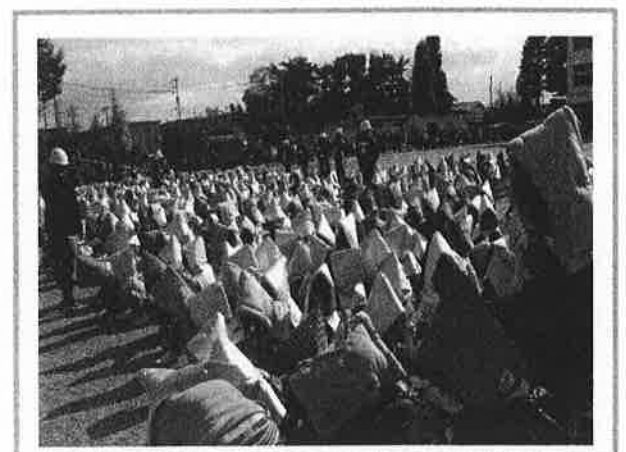
### ①「水上安全教室」と「総合的な時間」

海上保安庁の方々を講師に「水上安全教室」を実施した。不意の落水時の対応を学んだ後、背浮きの練習（写真）や救命胴衣着用体験を実施した。総合の学習では、身近にある広瀬川探検を取り上げ、環境出前講座ネットワークの「カワラバン」菅原先生を講師にお迎えし、川の様子を学び実際に川に入って水中生物などの採集を体験した。さらに、5年生最大の行事「野外活動」では、登山を始め、水神川遊び、火起こし炊飯、闇を歩くなどの自然体験学習を盛り込んで実施した。人や自然と深く関わる学習を通して、多くの感動や生きる知恵を身に付けることができた。



### ②地域防災の日を通して

11月21日（土）防災教育の授業と避難訓練の様子を保護者に公開した。授業では「災害時をくらすヒント」を題材に授業を展開した。児童は「火事などが起きたら、消防士が来るまで周りの人と協力して火を消したい。」「災害が起きたら、自分でできることを工夫したい。」「地域の人と協力し合うことが必要な時もあるんだと思った。」「学んだことを生かして、自分で動き、人のことも考えて、行動したい。」等の感想をあげた。





「目指す児童の姿」……日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにする。  
 自分の安全だけでなく他の人々の安全にも気配りができるようにする。  
 年間指導計画作成上の工夫：危険を予知し、自ら判断し、自らの安全を確保できる児童の育成をめざして。

	防災対応力の構成要素		知識	技能	態度
	学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容
	防災教育関連行事		教科	総合	特別活動
			道徳		
4月	年間指導計画・組織 校区・通学路の安全確認(生活・総合) 非常時メール・引渡カード防災計画 緊急時計画等 子どもを守ろうデー 4/10 第1回避難訓練(防犯)4/22	(体) 整列の仕方・ 廊下の歩行	テーマ設定 「自分の町をもっと 知ろう」	学校区・通学路の 安全確認 【事前事後指導】 避難訓練(防犯教室) 1年生を迎える会	
5月	全市一斉子どもを守ろうデー 5/8 交通安全教室；一斉下校(全校5校時) 運動会 5/23	集団行動(体)	広瀬川について調べよう ・PCでの調査活動①	一斉下校 【事前事後指導】 【防災副読本】 国 歩み出す力強く	
6月	防犯ボランティアとの顔合わせ(朝会) 子どもを守ろうデー6/5 救急救命講習会 8/10 第2回避難訓練(地震)6/15 第3回引き渡し訓練 6/21【日曜参観】	水泳①(体)	広瀬川について調べよう ・PCでの調査活動② ○川に学ぼう 自然・地域・暮らし ○川で遊ぼう 安全に楽しく優しく	避難訓練(地震) 【事前事後指導】 野外活動時の避難訓練 【防災副読本】 災害時をくらすヒント 引き渡し訓練 【事前事後指導】	
7月	子どもを守ろうデー7/10 あけぼのタイム①7/13 カップ教室7/28～7/30 ふるさと復興プロジェクト① 7/29 夏休みの安全指導	水泳②(体) 水上安全教室	泉ヶ岳を調べよう①	あけぼの祭り 夏休みの生活 【防災副読本】	国 希望の詩 ～「ない」～
8月	第4回避難訓練①(休憩時)①8/26 第4回避難訓練②(休憩時)②8/27	水泳③(体)	泉ヶ岳を調べよう②	第4回避難訓練 【事前事後指導】	
9月	街ぐるみ統一清掃 あけぼのタイム②9/9 子どもを守ろうデー9/11	(理) 台風と気象情報 【防災副読本】	泉ヶ岳を調べよう③ 野外活動(泉ヶ岳)	東小安全ウォーク大作戦	国 防災人としての 知恵
10月	子どもを守ろうデー10/9 学習発表会 10/31	国 いろいろな 自然災害 【防災副読本】 心と向き合って	今の町を見つめよう 「未来に伝えたい提案」		
11月	子どもを守ろうデー11/8 あけぼのタイム③11/11 地域防災の日(授業公開) 第5回避難訓練(地震・火災)11/21		地域の自然・未来の 町を考えよう①	第5回避難訓練 【事前事後指導】 【防災副読本】 「災害時をくらすヒント」	
12月	全市一斉子どもを守ろうデー あけぼのタイム④ 12/11 一斉下校訓練 12/11 あけぼのタイム⑤ 12/16 冬休みの安全指導	【防災副読本】 国 災害時の情報	地域の自然・未来の 町を考えよう②	冬休みの生活 一斉下校訓練 【事前事後指導】 冬休みの生活	
1月	子どもを守ろうデー 1/12		地域の自然・未来の 町を考えよう 発表会準備		
2月	ボランティア感謝の会2/2 子どもを守ろうデー2/5	(社) 災害から人々を守る	地域の自然未来の町 を考えよう 発表会	【防災副読本】 国 Heroes2011 Japan 国 防災知識をチェックしよう	
3月	子どもを守ろうデー3/11 春休みの安全指導		振り返り	6年生を送る会 春休みの生活 【防災副読本】 国 仙台の自然災害年 ・復興年表	

## 仙台市立八本松小学校 第5学年

### 1 学校・地域の実態について

八本松地区は、あすと長町地区が加わり、新旧が混在する地域である。震災後には地域住民が主体になり「地域合同防災訓練」を実施するなど、防災意識は高い。自分の役割を果たしていこうとする児童の意識を高めることが課題である。

### 2 平成 27 年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

自助 → 自ら危険を予想し、自らの命を守り抜くために主体的に行動できる児童  
共助 → 進んで他の人々や地域の安全・安心のために、役立つことができる児童

### 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間計画上のポイント

過去から学び、地域のことを知り、未来を生き抜く力を育成する防災教育

### 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

地域のことを学ぶことによって、自分の地域に対して愛着をもち、地域の担い手としての意識を高めることができた。また、下学年が使う防災カルタ作りにも自主的に取り組み、上学年としての意識を高めた。

#### <年間指導計画に基づいた実践の具体>

##### 1 安全集会

本校は、1学期始めに避難訓練等の多くを計画している。その後も、防災訓練や各避難訓練を適時に実施しているが、早い時期の訓練は年間を通して児童の防災意識を高めていると思われる。また、4月当初の避難経路の確認は、朝の短い時間で集会形式で行っている。他に5月中旬に不審者侵入時の避難訓練も安全集会で行っている。1単位時間を使わずに訓練を行うことができ、効率的かつ効果的であると思われる。

##### 2 地域を知る諸活動

本校では、主に5年生において「サケの飼育や放流」「広瀬側の水質調査」「郡山堀の歴史」など、総合的な学習の時間において地域を知る活動が多く取り上げられている。今年度は、学芸会においても郡山堀の歴史を劇に取り上げ、水害に対する児童の関心意欲を高めることができた。

##### 3 地域合同防災訓練

本校は八本松小学校区独自に行われる「地域合同防災訓練」に、毎年参加している。避難場所は、「八本松小学校」「地区市民センター」の2か所に分かれ、学年毎に分かれて体験学習を行っている。訓練終了後には、「みやぎ防災教育副読本」を使い、振り返りを学年毎に行っている。今年度の体験学習は、新たに防災カルタや濃煙体験等を行った。

##### 4 社明運動・感謝の会

地域の一員としての意識を高めるために、毎年、「社会を明るくする運動」に参加している。下校時に「社明運動」啓発活動として、地区町内会が3方面に分かれて集団下校している。また、児童会が中心となり、学校生活でお世話になっている地域の方々に感謝の意を表すために「感謝の会」を行っている。各学年が役割分担をし、児童会の一員、地域の一員としての意識を高めている。

過去から学び未来を生き抜く力を育成する防災教育

第5学年

☆副読本活用

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度		
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容		
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全集会(避難経路確認)</li> <li>交通安全・防犯教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の集会で、早期の避難経路確認</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校の安全・避難経路の確認・非常時下校体制の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆歩みだす力強く(1章②)</li> </ul>	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>復興プロジェクト</li> <li>集団下校訓練</li> <li>(家庭訪問)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>集団下校の事前指導</li> </ul>		
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練(地震)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>けがの防止(体育)</li> <li>☆応急手当の方法と救急車の呼び方(4章⑦:体育)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間(広瀬川の水質調査)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国土交通局東北地方整備局仙台河川事務所の方々の協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練事前事後指導</li> <li>☆災害時をくらすヒント(4章⑥)</li> </ul>	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き渡し訓練</li> <li>復興プロジェクト</li> <li>社会を明るくする運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけになったかな家庭の仕事(家庭)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みの生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆希望の詩～「ない」～(2章①)</li> </ul>
8	(地域行事への参加)			<ul style="list-style-type: none"> <li>地域行事への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2(3)友情・信頼</li> </ul>	
9		<ul style="list-style-type: none"> <li>台風と天気の変化(理科)</li> <li>☆いろいろな自然災害(3章③:理科)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・3(2)自然愛・環境保全</li> </ul>	
#	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域合同防</li> <li>野外活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>流れる水のはたらき(理科) ☆心と向き合って(4章⑧:体育)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りの活動で副読本の活用、防災カルタ作り</li> <li>野外活動時の災害発生への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆災害時の情報手段(3章④)H26実施</li> </ul>		
#	<ul style="list-style-type: none"> <li>学芸会の劇で表現</li> <li>復興プロジェクト</li> <li>避難訓練(火災)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間(郡山堀の歴史)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>☆立ち上がり！ぼらの復興プロジェクト(2章④)</li> <li>避難訓練事前事後指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3(1)生命尊重</li> </ul>	
#		<ul style="list-style-type: none"> <li>情報を生かすわたしたち(社会)</li> <li>☆災害時の情報手段(3章④:社会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間(サケの飼育と放流)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬休みの生活</li> </ul>	
1						
2					<ul style="list-style-type: none"> <li>☆Heroes2011</li> </ul>	
3		<ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害を防ぐ(社会)</li> <li>☆津波のメカニズムと災害(3章②:社会)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>☆防災知識をチェックしよう(6章①)</li> <li>☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春休みの生活</li> </ul>	

## 1 学校・地域の実態について

本校学区は3校の小学校からなり、それぞれの小学校では地域と連携した防災訓練を毎年行っており、小学校と地域の防災教育に対する関心と意識が高いものがある。しかし、中学校では、昨年度まで校庭への避難訓練や集団下校訓練などは行ってきたものの、これら以外の防災教育とその実践までは取り組んでいなかった。一方、本校学区は一級河川である広瀬川と名取川に囲まれ、二つの河川が合流する地域であるため、地域住民は特に豪雨災害に対して関心が高いものと想定される。このような実態から、中学校と地域が連携する地域防災訓練及び防災教育は、本校と地域の両者にとって必要かつ重要な取り組みになるものと考えている。

## 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

「地域防災力の向上と安全・安心な地域づくり」を行う上では、学校と地域が連携し、生徒と住民が関わりと繋がりを深め、共に取り組むことが防災教育を推進する上で重要な視点となる。この視点から教育実践を進め、防災・減災の知識とスキルそして行動を育み、自助と共助を生徒と住民が共に培い、生徒が“支えられる人”から“支える人”へと心と姿勢の変容を図る。このことが、新たな防災教育で目指すべき生徒の姿と捉え、その教育実践が、学校と地域の共通目標である「地域防災力の向上と安全・安心な地域づくり」の達成度を、学校と地域が協働することで確実に高めていく効果と成果が期待できるものと考えている。

## 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

学校と地域が協働し、中学生が主導する多様な体験的活動による防災教育の実践

## 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

「中学生が主導する地域防災訓練」と防災教育シンポジウムでは、生徒からのアンケート調査を行っており、数値の通り良好な変容が確認できた。特に中学生が中心になって地域防災訓練を実施することにより、中学生が地域防災に貢献できる「支える人」へと心と姿勢の変容が見られた。(別紙資料)

### < 年間指導計画に基づいた実践の具体 > 地域防災訓練より(活動班の様子)

避難所の開設と運営(受付等) 炊き出し調理と配給(カレーと豚汁) 防災学習の成果発表(住民・生徒へ)



設営と運営班は地域の町内会住民と連携し、避難所開設と運営等を合同で行った。地域住民153名が参加した。



炊き出し調理班(36名)は保護者と協力し、カレーと豚汁750食を提供した。(ご飯は持ち込みで行った。)



記録取材・情報収集班は当日の地域防災訓練の学習成果を午後からの防災教育シンポジウムの中で発表した。

郡山中 学校

第 1 学年 ( 防災教育 ) 年間指導計画

月	特別活動・学校行事等	道 徳	総合的な学習 の時間	教 科	防災読本
4	・校内安全点検・教育相談 ・安全な登下校指導と通学路の確認 ・避難方法と避難経路の確認 ・学校防災マニュアル確認	いまを生きる 大切さ3-(1) 「自分の番の ちのバトン」		・「衣生活・住生活と自立」(技・家) ・「集団訓練」(保体) ・文字と式「雷の光と距離の関係」(数学)	第6章1 防災知識をチェック しよう 第1章1 2 3
5	・校内安全点検・連絡網の確認 ・故郷復興プロジェクト(挨拶運動)		・市内班別研修 (安全対策)	・「衣生活・住生活と自立」(技・家) ・「応急処置の方法」(保体)	第2章1 2 絆 約束
6	・校内安全点検 ・市中総体時の災害発生への対応指導		・班別研修のま とめ	・地域調査に出かけてみよう(歴史) ・身近な地域の歴史(歴史) ・「衣生活・住生活と自立」(技・家)	
7	・校内安全点検 ・夏季休業中の安全指導 ・故郷復興プロジェクト ・教育相談・合唱コンクール (会場までの安全指導・会場での災害 時について等)			・「衣生活・住生活と自立」(技・家) ・文章を読み情報を捉え自分に生かす 「雪とパイナップル」(国語) ・体験したことをもとに説得力のある文 章を書く(国語) ・水泳「着衣泳」「心肺蘇生」(保体)	第4章3 夏季休業前に生徒 ・保護者に広報
8	・校内安全点検・教育相談			・「衣生活・住生活と自立」(技・家)	
9	・校内安全点検	好ましい世の中 4-(2)「バスと赤 ちゃん」		・「衣生活・住生活と自立」(技・家)	第2章3 助け合うってすばら しい
10	・校内安全点検 ・運動会(集団訓練)	心のあたたかさ 2-(2)「夜のくだ もの屋」		・運動会練習(集団訓練) ・「材料と加工に関する技術」(技・家)	
11	・校内安全点検 ・故郷復興プロジェクトデー ・地域圏防災訓練	郷土を愛する 心4-(8)「娘のふ るさと」	・防災講演会 ・防災検定準備	・「材料と加工に関する技術」(技・家) ・AEDの使い方(保体) ・平面図形(数学)	第2章4 心の交流会 第4章4 心肺蘇生の 方法とAED
12	・校内安全点検 ・教育相談	かけがえのな い家族(6)「語 りかける目」	・防災検定 ・ファイト事業事 前学習	・「材料と加工に関する技術」(技・家) ・コミュニケーション能力「道順を尋 ねる言い方と教える言い方」(英語)	
1	・校内安全点検 ・故郷復興プロジェクト (地域連携挨拶運動・ゴミ拾い登校)		・ファイトパーク事 業	・「大地の変化」(理科) ・「材料と加工に関する技術」(技・家) ・「心身の機能の発達と心の健康」(保体)	第2章6 震災復興計画を知ろ う
2	・校内安全点検			・「大地の変化」(理科) ・「情報に関する技術」(技・家)	
3		善意や支えへ の感謝2-(6)「 人のフリみて」	・野外活動事前 調査	・「情報に関する技術」(技・家) ・「心身の機能の発達と心の健康」(保体)	第4章5 心の健康を守るため に

## 1 学校・地域の実態について

- ・地域によって近隣とのかかわり方，防災・減災への取組の差が大きい。
- ・支援地域本部設立以降，ボランティアやゲストティーチャーとしての保護者や地域住民の協力が盛んになってきている。
- ・震災の被害は比較的少なく，危機感を持っている児童は少ない。

## 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- ・上学年は共助（下級生と一緒に避難するなど）を意識させる。
- ・下学年は自助（普段から放送やお話を良く聞く）を意識させる。

## 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント (キーワードで)

自分づくり教育の視点を生かした防災教育

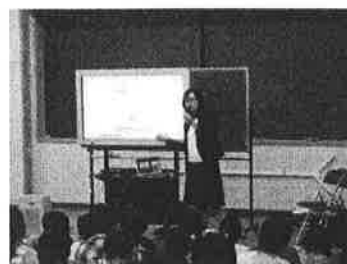
## 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・実態調査の結果から，災害とはどういうものかという知識の面で向上が見られた。各学年が重点を置く指導内容を年間指導計画に盛り込んだ結果であると思われる。
- ・放送を聞く態度に改善が見られたが，引き続き指導が必要である。

### < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

#### 1 減災に取り組む方のお話を聞く（年間指導計画 8月）

東北大学の減災プロジェクト「結」の授業の中で，直接お話を伺った。災害とはどういうものか，東日本大震災による被害，地震のしくみといった「知識」を身に付けた。また，イラストを見ながらどこに危険が潜んでいるのかグループで話し合ったり，見付けた危険を発表したりすることを通して，自分づくり教育における「かかわる力」「みつめる力」を高めることができた。



#### 2 避難訓練（年間指導計画 9月）

9月の避難訓練は業間休みに地震が発生した場合を想定して行った。「下級生と一緒に避難する」という共助の意識を高める良いきっかけになると考え，事前指導に力を入れた。昨年度行った同様の避難訓練の反省点について話し合い，「高学年は自分の避難が十分できているので，下学年の世話もできると良い」という意見が出された。実際の避難訓練では，図書室や中庭にいた児童が下級生を気遣う様子が見られた。

#### 3 総合的な学習の時間における活動

命について考える活動の中で「命を守る」というテーマを選択した児童を中心にクイズやハザードマップの作成，避難の仕方の看板掲示，市民センターの防災イベントへのボランティア参加など実際に動く姿が見られた。



平成27年度 寺岡小学校防災教育年間指導計画 第5学年

目指す児童の姿(高学年)・・・防災や災害対応の関係機関や取組について知る。【知識】

災害が発生したときには、家族や友達、地域の方と助け合い、リーダーとして下学年児童のお世話をする。【態度】

年間指導計画作成上の工夫・・・自分づくり教育の視点を生かした防災教育

月	防災教育関連行事	知識		技能		態度	
		教科	総合	特活	道徳		
4	年間指導計画確認 登校時の交通指導 交通教室 声掛け犯対応放送	家庭「はじめてみようクッキング」 体育「集団行動」	「命をつなぐ人々の思い」 野菜の栽培・酪農体験・地域の方のお話を通して、命について考える	避難経路確認 安全なくらし			
5	地域訪問 集団下校訓練 ★故郷復興プロジェクト						
6				生きるために7つようなもの(4章⑨)	災害への心構えと避難訓練 不審者対応 災害時をくらすヒント(4章⑥)		「家族って何だろう」 (家族愛)
7	引き渡し訓練	体育「着衣水泳」 「心の健康」心と向き合って(4章③)			有意義な夏休みにしよう		希望の詩～「ない」～(2章①)
8	登校時の交通指導	理科「台風と天気の変化」	「野外活動の計画」 (活動中に災害が発生したら)		休み時間の避難	昨年の避難訓練の反省点について話し合う【かかわる力】	「地球を救おうことも会議」(集団への参加と意義)
9	避難訓練②(業間) 野外活動	いろいろな自然災害(3章③)					
10	地域防災訓練	理科「流れる水のはたらき」 家庭「食べて元気に」					「命を守るための三原則」(望ましい生活習慣、思慮・節制)
11	避難訓練③(地震・火災) ★故郷復興プロジェクト		「今の自分にできることをやってみよう」		災害への心構えと避難訓練 立ち上がれ！ほぐらの復興プロジェクト(2章④)		「ボランティアしてみよう」(勤労・社会奉仕)
12		社会「情報化した社会とわたしたちの生活」災害時の情報手段(3章④)			有意義な冬休みにしよう		
1	登校時の交通指導						
2		国語「テレビとのつきあい方」 社会「わたしたちの生活と環境」 体育「けがの防止」					
3	震災関連行事				最上級生になるわたし	仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	「命の時間」(生命尊重)

地域の方々から命をテーマに話を聞いたり、命にかかわる体験をしたりして命について考える【かかわる力】

地域や家族のためできることを話し合い実行する【かかわる力・見つめる力・うごく力】

自分のこれまでの態度を振り返り、最高学年に向けて準備をする【みつめる力】

## 仙台市立 寺岡中学校 第2学年

### 1 学校・地域の実態について

地域において、災害時における中学生の活躍が期待されているが、部活動などがあつたり、どのように参加したらよいかわからないため、地域の防災行事に参加する生徒が少ない。

### 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

地域の防災行事に積極的に参加する生徒の育成

### 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント (キーワードで)

地域防災訓練を通して進める地域と連携した防災学習

### 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

今年度初めて、地域合同防災訓練を行った結果、多くの生徒が地域の人々との関わり大切さに気づき、防災訓練に参加することの大切さを理解し、防災に関する関心が高まった。寺岡市民センター主催の伊達な防災イベントのボランティアに積極的に参加する生徒はあまり増えなかったが、参加した生徒の防災に関する関心は高まった。

### < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

#### 1 地域防災訓練（年間指導計画10月）

災害時における中学生の活躍が期待されている中、今年度初めて、地域合同防災訓練を行った。寺岡・紫山の各町内会の会長や、防災リーダーの方々と3回話し合いを持ち、地域主導で寺岡地区は各町内ごと黄色い旗作戦から避難所までの避難、中学校でのトイレ組み立てやAED訓練、炊き出し訓練などを行った。紫山地区は黄色い旗作戦のあと、3年生は避難所開設訓練、2年生は炊き出し訓練、1年生は消火訓練・濃煙体験を行った。地域の方々も生徒も全員参加での防災訓練は初めてだったので、戸惑いがあったが、訓練に生徒が積極的に参加し、地域の方々も中学生の取り組みに驚いていた。改めて災害時の中学生の活躍に期待がもたれた。



#### 2 伊達な防災イベント（年間指導計画11月）

寺岡市民センター主催の第4回伊達な防災イベントに1・2年生の75名がボランティアとして参加した。自分から積極的に参加する生徒は少なかったため、部活動単位での参加となった。生徒は防災人間すごろくの司会補助や進行係、イベント準備係等にわかれて活動した。着ぐるみを着た生徒は汗だくになりながらがんばっていた。今年は生徒に中学校のブースで行うことを考えさせ、備長炭電池と化学カイロを行ったが、生徒が自ら考えたことを行ったで、より一層意欲的に取り組んでいた。イベントに参加した生徒の感想をみると、「地域の人と交流できて良かった。」「防災のいろいろなことを詳しく知ることができて良かった。」と地域の方との交流ができ、防災に関する関心が深まった。





寺岡中学校

第2学年 (防災教育) 年間指導計画

防災対応力の構成要素		知識	技能		態度
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳
	4	・全校リエナー ション ・PTA 総会	・実験器具の安全な取扱い(理) ・健康なからだ(保) P. 46, 47 ・衣類の燃焼実験(家)		・安全な登下校指導 P. 40, 41 ・集団行動と救急体制 P. 36, 37
5	・野外活動		・旅行の行事における事 前指導 P. 40, 41	・連休の過ごし方	
6	・市中総体 ・避難訓練			・部活動における事故防止 ・梅雨期の健康と安全 ・避難経路の確認 ・避難訓練(地震・集団行動)	・迷惑とは何ぞ (社会連携) P. 16, 17
7	・合唱コンク ール	・世界と日本の山(社) P. 32, 33 ・救急法(保) P. 42~45		・夏季休業中の過ごし方	・アップルロード*作 戦(郷土愛)
8	・(夏祭りなど地 域行事) ・小中合同講演会				・地域 行事へ の参加
9	・寺中祭 ・避難訓練	・性教育(保)	・寺中祭に向け ての安全指導 P. 40, 41	・災害時の避難方法 ・避難訓練(火災・ 集団行動)	・路上に散った正義感(正義) ・地下鉄で(社会連携) P. 1 8, 19
10	・地域合同防災訓練 ・市新人大会 ・職場体験			・部活動における事 故防止	
11	・球技大会 ・伊達な防災イベント			・球技大会に向けての安 全指導 P. 40, 41	・命の重さ(生命尊 重) P. 12, 13
12				・冬季休業中の過ごし方	・加山さんの願い(勤 労と奉仕の精神)
1		・天気とその変化(理) P. 30, 31 ・薬害について(保)			・ひとりぼっち (正義)
2		・天気とその変化(理) P. 30, 31			
3		・天気とその変化(理) P. 30, 31		・春季休業中の過ごし方	

☆ページ数があるところは副読本活用

## 1 学校・地域の実態について

本校は、仙台市北部、泉区の丘陵地に立地している。東日本大震災時には、本校も被災し、体育館は長期にわたり使用することができなくなった。学区内にも被災した家屋が数多く見受けられた地域である。そのような学校、地域であるが、防災意識や危機意識などは低下傾向であると感じられる。

## 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

自分でできることを一人ですることができる児童

## 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント (キーワードで)

避難訓練を核として意識、行動を変える防災学習

## 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・いつ、いかなることが起きるか分からないという意識が育ってきた。
- ・自分で、どうすれば良いかを考えて行動する姿が見られるようになってきた。
- ・訓練を振り返り、自分が置かれている状況を考えることができるようになってきた。

## < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

1 〈避難訓練等〉訓練の内容、回数を見直し、訓練の度に設定を変えて実施した。

(1) 避難訓練 児童が自ら考え、判断し、行動できるようになることをねらい、休み時間の避難訓練の回数を増やして実施した。

(2) 引渡し訓練 引渡しの方法を完全引渡しに変更をして2度実施した。引渡し後には、通学路上の危険箇所を親子で確認しながら下校しマップに記入する活動を取り入れた。さらに家庭で、災害に対する備えや災害時の約束事を話し合いワークシートに記入する活動も設定した。

(3) 校地外への避難訓練 震災時に校舎、体育館が被災し、さらには校庭が液状化したため、近くの公園を避難先に設定し、校地外への避難訓練を実施した。

2 〈安全タイム〉月に1度、全校で防災、安全に関する指導を業前の時間に一斉に行った。

3 〈全校防災授業〉年に2度、全校で防災授業を実施し、保護者への公開を行った。

4 〈復興プロジェクト〉中学校と連携し「あいさつ運動」を実施した。さらに中学生、地域の方々と一緒に「地域一斉清掃 落葉拾い」も実施した。

5 〈日常の指導〉指示を聞く、指示に従い確実に行動する、素早く行動するという態度、技能が非常時には、児童に求められるが、これらは非常時だけではなく、普段の生活や活動にも求められるものである。そのため本校では、話の聞き方や教室からの移動、整列の仕方など、日頃の指導が災害時、非常時に生かされると考え、全校で意識をして指導に取り組んだ。

仙台市立南光台東小学校

第6学年 防災教育年間指導計画

資料(平成25年度版 新防災教育副読本「3・11から未来へ」)

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合的な学習の時間		特別活動		道徳
4	・避難訓練 (不審者)	・集団行動 (体育)	資料「未来へつ なぐ」		・避難経路確認		資料「その向こ うに」
5	・交通安全教室 ・運動会 ・復興プロジェクト ・家庭訪問						
6	・修学旅行 ・芸術鑑賞会 ・避難訓練 ・引き渡し訓練		・修学旅行 非 常時の対応		・防犯訓練指導 資料「災害が起 きたら」「災害 に備える」		
7	・青空フェスティバル ・東っ子祭り ・地域夏祭り	・病気の予防 (体育) 資料「心と向き 合って」				・夏休みの生活	クリーン作戦 (公共)
8	・地域夏祭り						
9	・陸上記録会 ・避難訓練(地 震・業間) ・学区民運動会 ・安全タイム	・着衣水泳 (体育)					・ふるさとの音 (郷土愛)
10	・避難訓練 (地震・昼休み) ・全校防災授業 ・引き渡し訓練 ・安全タイム	・変わり続ける大 地(理科)資料 「地震のメカニズ ムを知ろう」「津 波のメカニズムと 災害」			資料「家族防災 会議を開こう」	資料「大きな災 害と人間の心の 心理」	・コウノトリの 飛ぶ空に(自然 環境・自然愛) ・ぼくの名前呼 んで(家族)
11	・避難訓練 (火災・業間) ・地域落葉拾い ・復興プロジェクト ・避難訓練(校地外) ・安全タイム				・防火について ・避難経路確認 (校地外)	・地域一斉清掃 落ち葉拾い	
12	・安全タイム						・世界が応援団 (国際理解) ・海は死なない (勤労)
1	・防犯教室 ・安全タイム	・電気とわたし たちの暮らし (理科)					・この命のかが やきを(生命尊 重)
2	・ボランティア 感謝の会 ・安全タイム	・日本とつなが りの深い国々 (社会) 資料 「つながる～世 界の国々」と			資料「防災知識 をチェックしよ う」		
3	・東日本大震災 関連行事 ・復興プロジェクト ・卒業式 ・安全タイム	・世界の未来と 日本の役割(社 会)			資料「学びの 窓・東日本大震 災の記録」	資料「仙台の自 然災害年表・復 興年表」	

## 仙台市立南光台東中学校 第2学年

### 1 学校・地域の実態について

本校は、仙台市北部の丘陵地帯に位置し、東日本大震災では、住居被害を受けた家庭も多い。生徒の地域での災害ボランティア活動の経験は少なく、震災当初に比べると地域の震災被害に対する意識も低下の傾向にあると思われる。日常の様々な機会を捉えて、学校の情報を伝えるとともに地域防災の視点から、保護者、地域住民に学校公開を推進していく。

### 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる力を育成する。非常時に進んで他の人や地域の力となろうとする心情や態度を育成する。

### 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント (キーワードで)

地域の人的資源を生かした防災教育

### 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

防災教育や防災避難訓練等を通して、非常時の対応方法を学ぶことができた。防災教育の中での話し合い活動を通して、お互いの意見や考えを聞き合う態度の育成と新たな気づきや防災に関する意識の高揚が図れた。

#### < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >



#### 〈防災副読本を利用した授業〉

防災副読本を活用して防災についての授業を行い、防災教育について話し合い活動を通して、新たな気づきや意識の高揚が図れた。(左上)

#### 〈地域の人材を活用した避難訓練〉

地域の防災リーダーを核として地域防災避難訓練を企画し、町内会の参加が図れた。避難所開設訓練の様子(左から2番目)

授業参観後に保護者も避難訓練と地域防災避難訓練に参加してもらい、家庭での防災教育についての一助とした。(左から3番目)

日頃から非常時に進んで人の力となろうとする心情や態度を育成するよう取り組んだ。地域の婦人防火クラブと消防署の協力を得て、救急救命の英語劇を実施した。(右上)

仙台市立南光台東中学校

第2学年 ( 防災教育 ) 年間指導計画

月	特別活動・学校行事	教科	総合的な学習/副読本(ページ)		道徳
4	・安全な登下校指導と通学路の確認 ・避難方法と避難経路確認	・[集団訓練]【保体】 火山・地震の分布【社会】			
5	・連絡網の確認 ・野外活動 ・震災復興プロジェクト		・野外活動集団訓練(緊急時対応指導)		
6	・避難訓練(地震想定) ・市中総体時の災害発生への対応指導			・復興への歩み「心の交流会」P16	「ともに生きる社会」
7	・夏季休業中の安全指導 ・震災復興プロジェクト	・[応急処置/心肺蘇生法]【保体】			
8	・震災復興プロジェクト				
9	・東雲祭(小鉄人発表会)	・造山帯・海底地形・自然災害と防災【社会】			「郷土の一員としての自覚」
10	・新入大会時の災害発生への対応指導	・火山の恵みと防災への取り組み・自然環境に備えた工夫	・職場体験学習 ・防災対策「巨大地震への備え」	・自助につながる判断行動 「自分の身は自分で守る」 P40	
11	・体育祭 ・地域防災避難訓練(火災想定) ・震災復興プロジェクト ・小中地域連携地域清掃	・球技大会練習(集団訓練)	・防災対策「自宅の備え/心肺蘇生」		「かけがえのな命」
12					
1		・[天気]【理科】		・共助の一翼を担う「1.17から3.11へ」P54	「思いやる心」
2		・[傷害の防止]【保体】 [天気]【理科】自然災害と対策【社会】		自然災害のメカニズム「地震に伴う災害について知ろうP26	
3	・震災復興プロジェクト	・[傷害の防止応急手当]【保体】			

## 仙台市立 長命ヶ丘小 学校

### 1 学校・地域の実態について

大震災からの大きな被害はなかった地域ではあるが、市民センターが防災の講演会を開催したり、震災後には、地域の防災訓練に中学生が学校として参加したりするなど関心が高い。小学生については、訓練に一部の児童が保護者ととともに自由参加したり、児童センターの活動の一環として参加したりしている。

### 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- ・地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的な知識を身に付けた子ども。
- ・状況に応じて的確な判断をし、自らの安全を守りながら、進んで地域の安全に役立つことができる子ども。

### 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

各教科等と関連付けた計画と学習

### 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

特に3年生については、総合的な学習を核に取り組んだことで、家庭・地域の防災への関心が高まり、自分のこととして学ぶ姿が見られた。同時に家庭の防災意識の高まりも見られた。

#### < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

##### 1 教科における防災教育

###### (1) 社会科「火事からくらしを守る」(第4学年)〔年間指導計画6月〕

- ・学校や地域の防災施設を調べ、学習課題を考える。
- ・「わたしたちのまち仙台」やインターネットを活用し課題を追究する。
- ・消防署や消防団が、地域の中でどのような工夫や努力をしているのか調べる。

###### (2) 理科「変わり続ける大地」(第6学年)〔年間指導計画12月〕

- ・地震や火山の噴火による大地の変化のようすについて調べる。
- ・災害に関する備えについて調べたり、災害から生命を守るためにできることを考えたりする。

###### (3) 生活科「もっと なかよし まちたんけん」(第2学年)〔年間指導計画11月〕

- ・まち探検で通る道路や周辺の建物の写真などを見ながら、どのような被害が起きるかを予想し対応の仕方を考える。
- ・避難場所、経路を探検地図にグループ毎に記入してロールプレイングも行う。

###### (4) 体育科「自然災害によるけがの防止」(第5学年)〔年間指導計画9月〕

- ・地震が起きた時に日常生活の中にひそんでいる危険について考え、対策をたてる。

##### 2 総合的な学習の時間における防災教育

###### (1) 「守れ! だいすき長命ぼうさい隊!」(第3学年)〔年間指導計画8月～3月〕

- ・「長命たんけん」(社会科)で学区内の危険箇所や避難場所を調べ、地域の行事で中間発表を行う。
- ・東日本大震災について家族や教職員などに取材し、自分の課題を設定する。

##### 3 特別活動における防災教育

###### (1) 学級活動「地震が起こったらどうするの」(第1学年)〔年間指導計画11月〕

- ・地震について知っていることを発表する。
- ・地震に関する絵本の読み聞かせを聞く。
- ・教室や学校以外で地震が起こった場合のことを考える。

##### 4 生活単元学習における防災教育「生活単元 町たんけんやお買い物学習のとき」〔年間指導計画4月〕



平成27年度 長命ヶ丘小学校防災教育年間指導計画 第3学年

月	技能・態度	知識		技能	態度
	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳
4	年間指導計画・組織 交通安全街頭指導 校区・通学路の安全確認 引渡しカード・緊急メール登録 防災マニュアル 防犯訓練：不審者				・社会のきま りを守って (わたしたち の道徳4(1))
5	家庭訪問時学区点検 避難訓練：休憩時に放送利用 全市一斉防犯・子ども守ろうデー：集団下校1	・長命たんけん(社)		・休憩時に地震が起きたときの身の守り方	
6	地域防災訓練 避難訓練：地震、引渡し 救急救命法講習 防犯・子ども守ろうデー		守れ！だいすき長命ぼうさい隊！ ↑	・引き渡し訓練の心構え ・「みんなの力で」(副読本5章)	
7	防犯・子ども守ろうデー 夏休みの安全指導 教育相談			・夏休みのくらし	
8	校内防災教育研修会 交通安全街頭指導				
9	防犯・子ども守ろうデー				
10	防犯・子ども守ろうデー 復興プロジェクト(学習発表会)				
11	避難訓練：火災 防犯・子ども守ろうデー 復興プロジェクト(美化活動)			・火災が起きたときの身の守り方	
12	全市一斉防犯・子ども守ろうデー：集団下校2 冬休みの安全指導			・冬休みのくらし	
1	防犯・子ども守ろうデー	・昔のくらしと町づくり(社)			
2	防犯・子ども守ろうデー				・きょう土を愛する心をもって(わたしたちの道徳4(5))
3	お話朝会：東日本大震災を考える (3/11宮城鎮魂の日) 春休みの安全指導		↓	・「しりょう」(副読本6章) ・春休みのくらし	

## 仙台市立長命ヶ丘中学校

### 1 学校・地域の実態について

約35年前に開発された団地であり、町内会の結束も強い。東日本大震災後いち早く総合防災訓練を実施したり、「3.11を忘れない祈念」を地域独自で継続して行っている。しかし、一方で町内会の高齢化が進み、活動の主体として学校に寄せられる期待が大きくなる傾向がある。

### 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

【自助】災害時に適切な判断に基づき、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒

【共助】災害時に自ら率先して身の回りの人や、地域の力となれる生徒

### 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

地域と連携した学校行事等を行い、生徒と地域の方々をつなぐ指導の工夫

### 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

「共助」の視点で、地域の力としてどのような行動をすべきか考える姿が見られた。

### < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

#### 1 地域防災訓練（年間指導計画6月）

地域住民と小・中学校が合同で行う防災訓練を継続して実施している。中学生は全員参加し、当日は一時避難所に集合してから、指定避難所（小中学校）へ地域の方と一緒に避難した。事前学習では、「自助」「共助」について学び、地域を支える力として中学生の力が求められることを理解した。当日は、避難者リストの作成に始まり、アルファ米の炊き出し、発電機の起動訓練、救命措置（AED）訓練等を地域の方と一緒に行った。



#### 2 避難訓練（年間指導計画6月・11月）

前期は地震、後期は火災を想定して訓練を行った。後期避難訓練では、市民センターと連携し、泉消防署の方々を招いて講話をいただいた。講話では、地震や火事等の災害が発生した場合に想定される危険や対処法などを学んだ。

#### 3 その他、学校行事等

##### ・ 学校に泊まろう（年間指導計画8月）

ロングライフヒルコミュニティ協議会（LLH）が主催する行事。中学校では有志生徒が参加した。夕飯では「サバ飯」を準備し、小・中・高生や地域の方々と、災害時を想定した活動を行った。

##### ・ Eco & Clean プロジェクト（年間指導計画6月）

生徒会が企画する地域清掃。居住地区ごとに分かれて一時避難所を確認した後、清掃活動を行った。

##### ・ 避難所運営ゲーム（HUG）

災害時の避難所運営をシミュレーションする防災ゲーム。市民センターを会場に、中学生と地域の方が協力して取り組んだ。

##### ・ 復興ソング定着化による風化の防止（毎日）

視聴覚委員が復興ソング「仲間とともに」を帰りの放送で流し、記憶の風化を防ぐ手立ての一つとしている。



地域と連携した防災教育

長命ヶ丘中学校第1学年

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活 道徳	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション(避難経路確認)</li> <li>・生徒会説明会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団行動(保健体育)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>☆東北地方太平洋沖地震発生(1章①)</li> <li>・避難経路の確認</li> <li>・非常時下校体制の確認</li> </ul>	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外学習</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>☆絆を力に一歩ずつ(2章①)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・4(8)郷土愛・先人への感謝</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中総体</li> <li>・避難訓練</li> <li>・E&amp;Cプロジェクト</li> <li>・地域防災訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一時避難所の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のためにできること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災マップを作ろう</li> <li>・炊き出し訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練(地震・集団行動)</li> <li>☆自分の身は自分で守る(4章②)</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復興プロジェクト(折り鶴)</li> <li>・夏季休業中の安全指導</li> <li>・学校に泊まろう</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・LLHプロジェクトサポート</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>☆中学生の声助け合うってすばらしい(2章③)</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏祭り(地域行事)</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事への参加</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸発表会</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・4(6)家族愛</li> <li>・3(1)生命尊重</li> </ul>
10		<ul style="list-style-type: none"> <li>☆家庭でできる災害への備え(4章③:体育)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のためにできること</li> </ul>		
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練</li> <li>・故郷復興プロジェクト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民センター、泉消防署と連携した訓練。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり推進課との合同訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆はじまり(5章②)</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬季休業中の安全指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆3.11の地震を科学の目でとらえよう(3章②:理科)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・3(2)自然愛・畏敬の念</li> <li>・3(3)広い心</li> </ul>
1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・火をふく大地(理科)</li> <li>☆知っておきたい心肺蘇生の方法とAED(4章④:体育)</li> <li>・心身の機能の発達と心の健康(体育)</li> </ul>			
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>☆心の健康を守るために(4章⑤:体育)</li> <li>・動き続ける大地(理科)</li> <li>・大地の変化を読み取る(理科)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>【私たちの道徳】p94～95</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3.11忘れないで祈念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の防災教育で学んだことを振り返りながら、東日本大震災に思いをはせる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>☆防災知識をチェックしよう(6章①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)</li> </ul>

1 学校・地域の実態について

- ・教室やトイレ等に「地震が起きたら」という写真入りのシミュレーションボードが掲示されており、児童が普段から目にすることができている。
- ・震災時は大きな被害は受けなかったが、3年前から連合町内会・小中学校合同防災訓練を行っており、毎年内容を工夫しながら取り組んでいる。今年度は、仙台市の夜間防災訓練を実施し、防災の意識を高めることができた。

2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- ◎自ら危険を予測し、落ち着いて行動できる子ども（自助）
- ◎地域の一員として、安全で安心な社会づくりに向けて協力し合える子ども（共助）

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント(キーワードで)

- ・地域の一員としての意識を高めながら進める防災学習（主に生活科・総合を中心に）

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・連合町内会と連携して行っている防災訓練や防災授業などの取組を通して、防災意識や関心が高まってきている。
- ・一時避難所に向かうことやその後の行動を地域の方と一緒に体験することにより、副読本などで学んだ知識をより深めることができた。

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

1 地域と連携した防災訓練（今年度は6月）

本校では、3年前から連合町内会合同避難訓練に参加し、一時避難所に避難することや町内会ごとに（児童・保護者や地域の方々）避難すること、また、防災教育の授業の公開などを行っている。

今年度は、行政と連携した仙台市総合防災訓練が実施され、夜間、悪天候にも関わらず約700名の地域の方が参加した。昨年と同様に、町内会が中心となって一時避難所にいる児童の安否確認を行ったり、地域の方々との防災体験をしたりしたことは大きな成果である。



仙台市総合防災訓練（6月12日）

2 地域の方との触れ合いを生かした学習（3年生・総合）

各学年の教育活動には、地域の方との触れ合いを重視した内容を取り入れている。3年生の総合的な学習でオオムラサキの観察や地域のボランティアの方を招き、話を聞く会を行っている。

オオムラサキの会の方々の「ふるさとへの思い」に触れたことをきっかけに、「ふるさと住吉台」に関わって活動している地域の方々への関心を広げていくとともに、自分たちができることについて自分の考えを持たせていく学習を進めている。



オオムラサキハウスの見学



話を聞く会

3 防災授業・各クラスでの授業、全校授業（9月・10月）

担任が行う防災の授業以外に、上学年、下学年に分かれて防災の授業を行っている。今年度は、上学年は「自然災害について理解を深め、減災という考え方を学ぶ」について、下学年は「様々な災害について知り、身の守り方などを確かめる」について行った。当日は、授業参観でもあり、保護者と下校しながら下校途中の危険個所の確認なども呼び掛けた。



防災教育年間指導計画

小学校 第3学年

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合 「輝け！みんなのふるさと 住吉台」	特活	道徳
	4	・避難訓練 (避難経路確認) ・交通安全教室1・2年生 ・交通安全教室全体	【社会】 学校のまわり	ふるさとのいい ところさがし	・登下校の安全 ・避難経路の確認
5	・引き渡し訓練 ・避難訓練(地震) ・避難訓練(休憩時)	【社会】 学校のまわり	オオムラサキ ハウスに行こう (オオムラサキ の会)		あいさつをする と(礼儀)
6	・仙台市合同防災訓練 (夜間) ・避難訓練(不審者) ・集団下校訓練	【社会】 学校のまわり	今年度のみの 訓練	・避難訓練事前 事後指導 ・集団下校のた めの縦割	☆家ぞくぼうさ い会をひらこう (4章⑤)
7	ふるさと夏祭り	【理科】 雨・風・かみな りについて知ろ う(3章②)		☆自分で決め る(4章③)	・楽しい夏休み
8	(地域行事への参加)	【体育】 ☆けがをしたと きは(4章⑧)			・地域行事への 参加
9	・全校防災授業	【理科】 地しんについて 知ろう(3章①) 【社会】店では たらく人	地域の一員とし て自覚	・1年～3年「準 備するもの は？」	
10	・地域合同防災訓練	・大地のつくりと 変化(理科) ☆地震のメカニ ズムを知ろう(3 章①:理科)	地域の方の話 を聞こう(オオ ムラサキの会)	「ふるさと」を豊かに したいという地域 の方の願いに触れ、 自分なりに考えを 深めていく。 ・避難訓練事前 事後指導	大通りのサクラ なみ木(尊敬感 謝)
11	・復興プロジェクト ・避難訓練(火災時)		越冬準備を手 伝おう	・避難訓練事前 事後指導	☆大切なこと (2章⑤)
12		・災害から人々 を守る(社会) ☆人々をつな げる活動(5章 ②:社会)		☆たくさんのお うえん(5章①)	・楽しい冬休み ことぶき園に 行ったよ(社会 奉仕)
1		【国語】町につ いて調べてしよ うかいしよう	地域の方の話を聞こう(ボラ ンティアの方)	つたえようわた したちのことば で(5章⑥)	
2	身近な人たち・地域の 方々へ目を向けさせて いく。	【社会】のこした いものつたえたい こと	地域のために できることさ がし	☆ふるさとを元 気に自分たち でできること (2章③)	
3	感謝の会	・震災時の様子 を聞く機会とす る。 ・地域に目を向け る。地域への働 きかけ		☆防災知識を チェックしよう(6 章①) ☆仙台の自然 災害年表・復興 年表(6章③)	

☆ 副読本活用

## 1 学校・地域の実態について

- ・中学校区学校支援地域本部との連携により、地域の行事へ中学生がボランティアとして参加している。
- ・小学校と連携して合同引渡訓練を行っている。
- ・地域防災訓練に中学生が参加している。
- ・1年生では校外学習で、2年生は野外活動で東日本大震災の被災地について体験学習を行っている。

## 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

地域との連携を深め、災害に関する知識を身に付けることにより防災意識を高める生徒の育成

## 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント (キーワード)

- 地域との連携による防災学習
- 被災地について学習することによる防災意識の向上

## 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・地域のボランティア活動に積極的に参加するようになった。
- ・被災地でボランティア活動を行ったことにより、被災地の惨状や復興の難しさを知ることができた。

## < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

### 1 地域合同防災訓練（年間指導計画 6月）

6月12日（金）に奥山市長も視察に訪れる中、夜間防災訓練が行われた。例年は全校生徒が参加していたが、今年は市中総体の前日であり、しかも夜間の訓練ということもあって、ボランティアとして保護者の許可を得た31名が参加した。17:00から18:40まで、男子は本部テントと仮設トイレの設営、女子はアルファ米の炊き出しと箱詰め及び各町内会への配付の仕事を行った。

### 2 地域と連携したボランティア活動

本校は学校支援地域本部のスーパーバイザーの方々や小中学校や町内会等の地域と密に連携を取り、小学校の体力テスト（6月）や親子ウォークラリー（7月）の補助員、コミセン清掃（10月）にボランティアとして多数の中学生を派遣することができている。その他にも、住吉台夏祭り（7月）の翌日の朝に後片付けを行うボランティアや地域ふれあいコンサートへの文化部の参加など多岐にわたって地域との連携を深めている。

### 3 校外学習での被災地学習及び体験ボランティア活動（9月）

1年生では校外学習として女川を訪問し、被災地の現状を見聞し地域の方と触れあってボランティア活動を行った。また、東日本大震災からの復興をモチーフにした合唱曲「心に花を咲かせましょう」を練習し、女川きぼうの鐘商店街で演奏した。更に仙台市音楽発表会で演奏するなど、この曲を「学年の歌」と位置付け、卒業式まで歌い続ける予定である。

仙台市立住吉台中 学校

第 1 学年 ( 地域との連携を基盤とした ) 年間指導計画

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総 合	特 活	道 徳		
4	・オリエンテーション(避難経路確認)	・集団行動(保健体育)			☆東北地方太平洋沖地震発生(1章①)P4?5 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認		
5	・小中合同防災引渡し訓練 ・避難訓練(地震想定)		☆絆を力に一步步(2章①)P10			・小中合同防災引渡し訓練への参加	・4(8)郷土愛・先人への感謝
6	・交流学习(部活動) ・地域総合防災訓練 ・交流学习(体育・音楽) ・コミセン清掃活動	心の交流会 ・合唱、ダンスでふれ合おう	災害から命を守るために(DVD視聴)	・部活動ごとに交流しよう ・地域総合防災訓練への参加	☆自分の身は自分で守る(4章②)P40 ・心肺蘇生法を体験 ・搬送方法を体験 ・災害伝言ダイヤルについて学ぼう		?復興への歩み ・約束
7	・合唱コンクール ・夏季休業中の安全指導 ・親子ウォークラリー		急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう(発達した積乱雲による災害啓発DVD視聴)		・親子ウォークラリーのボランティア	☆中学生の声助け合うってすばらしい(2章③)P14	【私たちの道徳】p148~153
8	・夏祭り(地域行事)					・地域行事への参加	
9	・校外学習(女川、石巻) ・公園ペンキ塗りボランティア		被災地の復興現状を調べよう(女川)	被災地の復興状況を知ろう		市小体参加小学生への実技指導	・4(6)家族愛 ・3(1)生命尊重 【私たちの道徳】p98
10	・コミセン清掃 ・ふれあいコンサート	☆家庭でできる災害への備え(4章③:保健体育)			仙台市中学校音楽発表会への参加	全校ボランティア活動(校庭の石拾い、雑草取り)	
11	・避難訓練(火災) ・復興プロジェクト		・市内中学校の復興への取り組みを紹介	・被災地復興プロジェクト			☆はじまり(5章②)
12		☆3.11の地震を科学の目でとらえよう(3章②:理科)					・3(2)自然愛・畏敬の念 ・3(3)広い心
1	・全校かるた大会	・火をふく大地(理科) ☆知っておきたい心肺蘇生の方法とAED(4章④:保健体育) ・心身の機能の発達と心の健康(保健体育)	被災地の復興現状を調べよう(気仙沼)			ボランティア活動(落ち葉掃き清掃)	
2		☆心の健康を守るために(4章⑤:保健体育) ・動き続ける大地(理科)	・地域のためにできること				【私たちの道徳】p94~95
3	・復興プロジェクト		・市内中学校からのビデオレター紹介		☆防災知識をチェックしよう(6章①)	☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	・3(2)自然のすばらしさ

☆ 副読本活用

## 仙台市立 館小学校

### 1 学校・地域の実態について

本校は泉区の山間地域に位置しているため、東日本大震災の際にも校舎や住宅への大きな被害はなかった。しかし、地域主導で避難所を開設・運営し、また、震災後も地域を挙げて防災訓練を実施するなど、地域の防災意識は比較的高いと思われる。

### 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

地震や火災などによる災害から、自ら生命を守るのに必要な事柄を実践的に理解できるようにするとともに、安全な行動ができるような態度や能力を身に付ける。自助・共助の精神を養う。

### 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント(キーワードで)

- ・地域・家庭との連携した防災訓練・防災学習の実施。
- ・居住地域を基にしたグループ編成による活動。
- ・事前事後の学年の実態に応じた防災教育の授業での資料の活用。

### 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・地域・家庭との連携した防災訓練・防災学習を行った結果、児童に地域の一員としての防災意識が培われてきている。
- ・学校全体の教育活動で、居住地域ごとに編成したグループ活動を行ったことにより、子ども同士の地域でのつながりが深まった。

### < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

#### ・地域防災訓練への参加

連合町内会が行っている地域防災訓練(土曜日実施)に中学校とともに、授業の一環として参加し、地域と連携しながら防災教育に取り組んだ。地域と学校で計画立案のための協議を重ねるなどして進めてきたことで、地域ぐるみでの防災教育への取り組みが定着してきている。

#### ・居住地域別のグループ編成を基にした教育活動

「たてわり活動」「集団一斉下校」では、居住地ごとのグループ編成を行い、地域での子ども同士のつながりを深めさせる機会とした。その結果、上学年が中心となり下学年の面倒を見るなど、他を思いやる心が育まれるとともに、児童の地域への帰属意識が高まった。

#### ・復興プロジェクトの様子

児童会が毎月実施してきた「あいさつ運動」を中学校との共催で数回実施した。回を重ねるたび参加者が増えた。また、高学年にとっては、中学生からいろいろなことを学ぶ機会となった。

#### ・避難訓練の様子

年2回の避難訓練を実施した。学校アンケートの結果から、「避難の仕方がわかりますか」の設問に対し、全体の約9割近くの児童が「よく分かる」と回答し、一定の成果が見られた。事前事後の指導で防災教育副読本を有効に活用したことにより、児童の防災意識が高まった。

防災対応力の構成要素 学習内容		知識		技能	態度		
		防災や災害に関する周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容	防災や災害に関する間接的な内容		
月	関連行事	教科	総合的な学習の時間	特活	道徳		
4	年間指導計画・組織 校区・通学路の安全確認 避難経路の確認 引き渡しカード配布・回収 登校指導		学級活動で避難経路、非常時下校体制の確	歩み出す力強く(学)1-2 感謝と前向きな気持ちを持つ	避難経路の確認 教室からの避難経路を知る		
5	交通安全週間 あいさつ運動・たてわり 職員防災研修①		居住地域ごとのグループでの顔合わせ、グループでの活動				
6	避難訓練(地震) 引き渡し訓練 小中合同あいさつ運動 地域防災訓練 自転車教室(3年) プール開き	心の健康(保) ストレスの対処法を知る		道徳や副読本を使用し、家庭でできる災害への備え、地域台災訓練に備える。	地域防災訓練(行)4-6 災害時のくらしについて理解する		
7	職員防災研修② 救命法講習 夏休みの安全指導 校区・通学路の安全確認 あいさつ運動・たてわり活動 「七夕まつり」折り鶴づくり 小中連絡会議(児童会)	水泳(体) 水に入った時の体の動かし方を知る		地域行事への参加で、共助の心と態度を養う。 夏休みのくらし(学)身の周りに起こる危険を考え、暮らし方を考えることができる		13 命を守るための三原則～自分たちの命は自分たちで守る  大震災からの教訓 避難の心構え	
8	登校指導 「七夕まつり」への参加						
9	たてわり活動	いろいろな自然災害(理)3-3 さまざまな自然災害について知る					
10	避難訓練(火災) たてわり活動  野外活動		副読本を事前に使用し、訓練を実施事後には、学級で振り返り	避難訓練(行) 火災の時の避難の仕方(学)火災時の安全な避難の仕方について考える。	野外活動(行) 集団宿泊訓練を通じて非常時にも協力して活動する態度を身に付ける。		
11	交通安全週間 小中合同あいさつ運動 復興プロジェクト・デー たてわり活動 職員防災研修③			復興プロジェクト・デー(行)2-4 復興に向けて自分たちができることを考え、積極的に取り組もうとする態度を持つ。			
12	冬休みの安全指導	災害時の情報手段(社)3-4 災害時の情報を得る手段について考える。			冬休みの過ごし方(学)冬休みの安全な過ごし方について考える。		
1	登校指導						
2							
3	春休みの安全指導  3.11復興プロジェクト			3・11復興プロジェクト(行) (学)5-5 救援や復興のために献身的に取り組んだ人々の姿から学ぶ。	春休みの過ごし方(学)春休みの安全な過ごし方について考える。		
		今年度の防災学習で理解したこと、身に付いたことを振り返りながら、3・11に思いを寄せる。					

防災訓練を核とした防災教育

## 1 学校・地域の実態について

本校は、泉区西部の丘陵地に立地し、震災時は大きな被害を受けていない。10年ほど前から連合町内会主催の地域防災訓練に参加しており、学校行事として位置付けている（土曜日開催）。事前に、館小、館中、連合町内会担当者間で綿密に打合せを行い、地域と児童生徒をつなぐ取組を展開している。地域防災訓練は今年度21回目を迎え、防災について非常に高い意識を持つ地域である。一方、生徒は防災の担い手として地域から期待されているものの、防災意識が高いとは言えない。

## 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- 地域の一員としての自覚を持ち、自主的にボランティアに参加する生徒  
〔27年度協働型学校評価の重点目標の1つ〕
- 防災対応力を身に付け、災害時に進んで地域の力になれる生徒

## 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント (キーワードで)

「地域とかかわる力を身に付ける防災学習」

## 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか。

防災訓練や地域ボランティア活動への参加、道徳や学活の時間等の実践を通しながら、生徒には進んでボランティアに取り組む姿勢や、望ましい人間関係を築く態度、地域とかかわる力が徐々に身に付いてきたと思われる。今後は、各教科における「防災」をより明確化し、構造的につなげていきたいと考えている。

### 〈 年間指導計画に基づいた実践の具体 〉

#### 1 地域防災訓練（年間指導計画6月）

実施の流れとしては、町内会ごとに<sup>いっしょ</sup>一時避難所へ集合し、安否確認の後中学校へ移動。中学校では、炊き出し訓練、トイレ用水の確保（バケツリレー）、救急救命訓練（AED）、発電機作動など、いくつかの訓練に取り組んだ。用具の使用法はもちろんのこと、地域の方々との触れ合いや、緊急時の心構えなどを確認することができた。今年度は新たに、ペット避難所の運営について地域の方々と共に学習した。

#### 2 小中合同あいさつ運動の実施（年間指導計画6月、9月、10月、11月）

平成26年度から年4回程度、館小との合同あいさつ運動を行っている。また、月2回、登校時に地域のゴミ拾いを行うチリトリーズ、冬季は雪かきやあいさつ運動を行う雪トリーズを行っている。全校生徒が、地域とのあいさつや町内清掃に関わる機会を持つことができた。

#### 3 地域ボランティアとしての参加（年間指導計画7月、11月）

ボランティアとして参加する生徒が増えてきた。夏まつりボランティアや地域スポーツ大会への部活動単位での参加などを通して、地域の方々との交流を深めた。7月は近隣の特養老人ホーム清掃、11月は町内落ち葉掃き清掃と交流会があり、ボランティアを通して地域の方々とかかわろうとする気持ちが身に付いてきた。

#### 4 望ましい人間関係づくりを目指した学級活動の実施（年間指導計画5月、11月）

「コミュニケーションってなんだろう？」というテーマで、年3回を計画した。第1回目：会話のキャッチボール、第2回目：いろいろな聴き方・伝え方を知ろう、という内容で、SCと教員による合同授業を学年全体で行った。相手の立場に立って話すことや、相手の話を積極的に聴くと共に自分の気持ちを適切に表現する方法を学び、望ましい人間関係づくりに必要なことを考えることができた。3回目は2月の予定である。





防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合	特活	道徳	関連行事等	
	4					・オリエンテーション ・震災時緊急時対応カードの提出	学級活動での避難経路、非常時下校体制の確認
5	・緊急連絡網の確認 ・野外活動(緊急時対応)	・日本の様々な自然災害と防災(社会)「エネルギー変換に関する技術」	◇たく生き⑤プラン80「先輩・後輩の関係」		・人間関係づくりのための授業①	「遠足」 ☆花と緑で人々に笑顔を(2章⑤)	
6	・市中総体 ・地域防災訓練	☆一人一人が災害に備える(4章①) 家庭 ・住居 副読本を事前に使用し、地域防災訓練に備える。		・避難訓練(地震・集団行動) ☆地域の一員として(5章③)	地域行事への参加でボランティア精神共助の心と態度を養う。		
7	・合唱コンクール ・復興プロジェクト ・家庭訪問・三者面談 ・地域ボランティア①	地域とかかわる力を身に付ける防災学習		「自ら生き抜くための知恵」 ・夏季休業中の安全指導	・地域行事への参加	「一枚の手紙」 ☆心の交流会(2章④)	
8	・夏祭り	「情報に関する技術」(技家)		「災害時に情報を使いこなす力を身に付けよう。」	・地域行事への参加	道徳プロジェクト第1回目(よりよい学校生活)	
9	・館中祭 ・後期生徒会選挙	・運動会練習(保体) 「情報に関する技術」(技家)	運動会への関わり方、共助の態度を身に付ける		◇たく生き④「みんなの力」	「競争」と「協力」	
10	・運動会	「九州～豪雨による土砂崩れと水害」(社会)・運動会練習(保体)		・「ともに支え合う。」たく生き⑤プラン⑧2「自信をなくしたら」	◇たく生き④プラン⑥5「働き続けるには」	◇たく生き⑤プラン⑧3「4つのじんざい」	
11	・職場体験学習 ・避難訓練 ・復興プロジェクト ・地域ボランティア②	☆地域の一員として(5章③)	・職場体験学習(緊急時対応訓練) ☆心を満たす食べ物を届ける(5章①)		・人間関係づくりのための授業② ・地域行事への参加	自分づくり教育との関連(かかわる力)	
12		☆仙台平野 災害の歴史を学ぼう(3章⑥:社会) 「障害の防止～自然災害による」(保体)		地域行事への参加でボランティア精神共助の心と態度を養う。	道徳プロジェクト第2回目(思いやり・感謝)	「雪の日の出来事」(思いやり)	
1		「天気とその変化」(理科)「障害の防止～応急手当」(保体)			☆1.17から3.1へ(5章④)	道徳プロジェクト第3回目(思いやり)	
2		「北海道～自然災害と対策」(社会)	教科学習で防災を構造化する。		防災学習の振り返りを行う。	「人々のために」 「住みよい社会に」	
3	・復興プロジェクト	・身近な地域の調査(社会)		☆防災知識をチェックしよう(6章①)	☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)		

☆ 副読本活用◇たく生き授業プラン集

## 1 学校・地域の実態について

本校は仙台市の東部に位置し、学区のほぼ中央を七北田川が流れる田園地帯であり、昔も今も交通の要地になっている。震災では、学区内の家屋が倒壊するなど大きな被害を受け、本校も避難所となって機能した。学校は千人を超える大規模校で、1小1中の学区である。学校支援地域本部も小中合同であり、地域の方々も教育活動に協力的である。

## 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

地域の特色を意識し、経験や知識をもとに的確に判断し、行動できる児童

## 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

地域や中学校と連携し、小中の発達段階を意識して進める防災学習

## 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

さまざまな訓練や指導を通して、臨機応変に対応したり、新しい知識を獲得したりする児童が増えた。

### 〈年間指導計画に基づいた実践の具体〉

#### 1 小中合同引き渡し訓練(5月)

1小1中の地域性を生かして、震災後から小中合同の引き渡し訓練を実施している。小学生の兄弟がいる中学生が中学校から来て親に引き渡される。小学生にとっては、兄弟の中学生がいるということは心強く、安心して引き渡しを待つというメリットがある。

#### 2 竜巻対応避難訓練(7月)

昨年度から竜巻対応の避難訓練を実施している。プレハブ校舎があり、安全のため本校舎に避難する。今年は2回目ということで、竜巻に対する避難の方法もつかめてきたようである。また事後指導として、全校にテレビ放送を実施し竜巻の知識を身につけさせることができた。

#### 3 工事期間対応避難訓練(12月)

校舎の増築工事が始まり、避難場所である校庭の大部分が使えなくなった。プレハブ校舎もあり、避難訓練の必要性を感じて実施することになった。災害の想定によって、避難場所をどうするか、避難経路をどうするかなど様々な課題を見つけることができた。来年は校舎の増築工事が終わる。それに対応して避難方法や避難経路などを考えるいい機会となった。児童も初めての経験で緊張感を持って取り組むことができた。

地域や中学校と連携し，小中の発達段階を意識して進める防災教育

第2学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度
学習内容		防災や災害に関する 周知的基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容
	教科・領域 関連行事等	教科	生活・総合	特活	道徳	
	4	避難訓練 (避難経路確認) 避難訓練(地震)			★ひなんの仕 方を考えよう (4③)	★たった一つのもの (1③)
5	避難訓練 (地震・津波) 引き渡し訓練		★家のまわり 学校のまわり (4①)		★大切なこと(2④)	
6	町探検1 復興プロジェクト		★ぼうさいマ ップを作ろう (4②)			
7	避難訓練(竜巻)	★けがをしたとき は(4⑧)		★雨・風・雷 について知ろ う(3③)		
8				★生きるとき にひつような もの(4⑨)		
9		★見つめようわた しの心(4⑩)				
10					★海をこえてきたお くりもの(5②)	
11	復興プロジェクト 放送を聞く訓練 避難訓練(火災)		★学びのまど ・東日本大し んさいのきろ く(6②)			
12	町探検2 避難訓練 (工事対応)					
1					★動物たちのいのち (5④)	
2			★ぼうさいち しきをチェッ クしよう(6 ①)			
3	復興プロジェクト			★ぼうさいリ ュックをよう いしよう(4 ⑥)		

★「3. 11から未来へ」副読本活用

## 仙台市立 岩切中 学校 第2学年

### 1 学校・地域の実態について

本校は、1小1中の学区であり、今年度までモデル校として、5年間に及ぶ学びの連携事業に取り組んできた。そのため、小中と地域が連携した挨拶運動・行事・避難訓練などの数々の実績がある。東日本大震災時は、避難所が開設され、PTAのOBを中心に設立された地域支援本部が避難所の運営や被害の復旧に尽力した。また、生徒は学区の13地区に別れてボランティア活動に当たるなど、災害時の協力体制が整っている環境にあると言える。

### 2 平成27年度 新たな防災教育で目指すべき児童生徒の姿

「防災対応力」＝「自助」・「共助」の知識と実践力を身に付け、自他を尊重する精神をもった生徒

### 3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント(キーワードで)

知識・技能・態度を育む活動の重点化／学校・家庭・地域の連携／3年間を通じて身に付ける防災学習

### 4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

1学年での「防災マップ作り」、2学年での「炊き出し訓練」、3学年での「AED研修」と3年間を通じて防災教育を実践した結果、困った人を見つけたときは助けてあげたい、という気持ちが高まっていく様子が見られる。2学年では炊き出しの知識・技能を身に付けることにより、電気やガスのない状況で食事の準備をすることに自信が持てるようになり、非常時における対応力が高まった。

### < 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

#### 1 小中合同引渡避難訓練（年間指導計画5月）

中学校では、4月末に地区別の整列方法、災害の規模に応じて自分で選択した避難方法を確認する訓練を実施している。これを受けて5月に実施した、「①中学校引渡し ②小学校引渡し ③地区別集団下校」の3コース別の小中合同引渡避難訓練では、保護者の方々にも訓練に参加していただいている。

#### 2 ひまわり復興活動（年間指導計画6月～9月）

復興支援として神戸市内の中学校から贈られたひまわりの種を毎年育て、収穫した種は、文化祭で地域の方々に配布している。震災の記憶を留め、互いに励まし助け合うことの大切さを伝えている。

#### 3 小中合同あいさつ運動、他（年間指導計画毎月1回、他）

小中合同挨拶運動では、ちょボラ隊が小学校へ行き、児童と合同で朝の挨拶運動を実施している。また、中学校では、モラル向上委員会・学年委員会・生徒会執行部が合同で朝の挨拶運動を実施している。挨拶運動に地域の方々も参加し、交通指導なども実施されている。

#### 4 防災教育学年行事（1年防災マップ：7月、2年炊き出し訓練：10月、3年AED研修：11月）

学年ごとに、防災教育の学年企画を実施している。いずれも、消防署、婦人防火クラブ、学校支援地域本部、岩切中PTA本部、岩切小PTA、学年PTAなど多くの方々に御協力をいただきながら、訓練や研修を実施している。防災の知識・技能・態度の基礎が育まれ、学年が上がるにつれて自助から共助への意識を高めていく。

防災対応力の構成要素		知識		技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳	
4	避難訓練に向けた全校集会	クラスごと 避難経路, 非常時下校体制, 引渡下校の確認 その後 集会で引渡下校別の顔合わせ		<ul style="list-style-type: none"> <li>☆復興に駆ける(1章②)</li> <li>・避難経路の確認</li> <li>・非常時下校体制の確認</li> </ul>		
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練(地震想定・整列訓練)</li> <li>・避難訓練(小中合同引渡訓練 地震・津波想定)</li> <li>・野外活動</li> </ul>	副読本を事前に使用し, 訓練を実施		<ul style="list-style-type: none"> <li>・引渡し・集団下校体制の確認</li> <li>・避難訓練(地震想定・整列訓練)</li> <li>・避難訓練(小中合同引渡訓練)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆花と緑で人々に笑顔を(2章⑤)</li> </ul>	他県より贈られた花の種の紹介 ひまわり復興活動への意識付け
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひまわり復興活動</li> <li>・中総体</li> <li>・小中合同あいさつ運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆一人一人が災害に備える(4章①:家庭)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練(地震・集団行動)</li> </ul>		・4(5)勤労・奉仕
		教室でひまわりの種を発芽させる。 7月 ちょぼラ隊による花壇への植栽				
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中の安全指導</li> <li>・家庭訪問</li> <li>・地区生徒会</li> <li>・小中合同あいさつ運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆古典に残る災害を読んでみよう(3章⑦:国語)</li> </ul>				☆心の交流会(2章④)
8	地域行事				・地域行事への参加	
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭(ひまわりの種配布・1年防災マップの展示)</li> <li>・小中合同あいさつ運動</li> </ul>	地域の方にひまわりの種と復興への思いを綴ったしおりを配布				
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練(火災想定)</li> <li>・学年運動会</li> <li>・小中合同あいさつ運動</li> </ul>	☆地域の一員として(5章③)				・4(7)愛校心
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年別防災学習</li> <li>・小中合同あいさつ運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>炊き出し体験に備え, 事前準備(空き缶の切り出し, 燃料の確保)</li> <li>道徳や副読本を活用した学習により, 自助・共助を学ぶ。</li> <li>家庭・地域と共に実施することで, 助け合いの心や連帯感を育む。</li> </ul>		・炊き出し体験	・クロスロードゲーム	・3(2)自然愛・畏敬の念
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬期休業中の安全指導</li> <li>・小中合同あいさつ運動</li> </ul>			炊き出し体験を振り返りながら, 地域や家族のためにできることを考える。		・4(8)郷土愛・先人への感謝
1	小中合同あいさつ運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆家庭でできる災害への備え(4章③:保健体育)</li> <li>☆知っておきたい心肺蘇生の方法とAED(4章④:保健体育)</li> </ul>		副読本を使用しながら, 教科の学習を進める。防災教育と関連する内容を意識して実施する。また, 3年次にAED研修があることを知らせ, 3年間の防災学習に見通しを持たせる。		
2	小中合同あいさつ運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆風水害に備えよう(3章⑤:理科)</li> <li>☆心の健康を守るために(4章⑤:保健体育)</li> </ul>				・3(1)生命尊重
3		副読本を使用した学習を通して, 今年度学んだことを振り返りながら, 3.11に思いを寄せる。		☆防災知識をチェックしよう(6章①)	☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	

☆ 副読本活用